

一般科目	一般教養	1学年	前後期
目的及び留意点	ビジネス能力検定試験3級合格を目指し、社会人として必要なエチケット、人間性の教育を学び、接客業として必要なスキルを習得する。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト		
指 導 内 容			
前 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	オリエンテーション	授業概要、ジョブパス試験について	
2	キャリア形成・コンプライアンス	キャリア形成・コンプライアンスについて	
3	8つの意識①	働くうえでの8つの意識	
4	8つの意識②	働くうえでの8つの意識	
5	報告・連絡・相談	報連相の重要性	
6	報告・連絡・相談	報連相のポイント	
7	言葉遣い・敬語	正しい言葉遣い	
8	言葉遣い・敬語	正しい敬語・クッション言葉	
9	ビジネスマナーとコミュニケーション	基本的なビジネスマナー	
10	ビジネスマナーとコミュニケーション	コミュニケーションの重要性・発声	
11	来客応対・訪問	来客対応、訪問時のマナー	
12	ビジネス文書・メール	ビジネス文書の書き方	
13	ビジネス文書・メール	ビジネスメールの作成	
14	日本社会と経済	現代の日本社会	
15	日本社会と経済	経済について	
16	お礼状の書き方	お礼状の書き方	
17	お礼状の書き方	お礼状の書き方 実践	
18	発表練習	他者の前で話すことの練習	
後 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	ライフプランニング①	ライフプランの作成について	
2	ライフプランニング②	ライフプランの作成ワーク	
3	ライフプランニング③	ライフイベントにかかる費用を知る①	
4	ライフプランニング④	ライフイベントにかかる費用を知る②	
5	ライフプランニング⑤	自分のライフプランを振り返る	
6	テーブルマナー	一般的なテーブルマナー	
7	冠婚葬祭のマナー	慶事のマナー	
8	冠婚葬祭のマナー	弔事のマナー	
9	日本の年間行事	日本の年間行事について	
10	社会生活の基礎知識①	経営	
11	社会生活の基礎知識②	給与	
12	社会保険と税金	住民税、所得税	
13	社会保険と税金	ふるさと納税	
14	社会保険と税金	健康保険	
15	社会保険と税金	その他 社会保険	
16	ロジカルシンキング	ロジカルシンキング	
17	ストレスマネジメント	ストレスマネジメント	
18	1年間のまとめ	1年間のまとめ	

一般科目	パソコン演習	1学年	前後期
目的及び留意点	パソコンの基本操作を通じ、情報の処理・加工・発信の技術を身に付ける。		
評価方法	実技課題		
テキスト	30時間でマスターOFFICE 2019		
指 導 内 容			
前 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	Word作成①	フォルダ作成 Word画面構成	
2	Word作成②	文字変換 タイピング ページ設定	
3	Word作成③	社外文書① 書式BIUまで	
4	Word作成④	社外文書②	
5	Word作成⑤	段落 フォトルーラー①	
6	Word作成⑥	段落 フォトルーラー②	
7	課題①	社外文書	
8	Word作成⑦	課題①解説	
9	Word作成⑧	作表①	
10	Word作成⑨	作表②	
11	Word作成⑩	作表③	
12	課題②	作表④	
13	Word作成⑪	課題②解説	
14	Word作成⑫	図形①	
15	Word作成⑬	図形②	
16	Word作成⑭	図形③	
17	課題③	図形④	
18	Word作成⑮	課題③解説、まとめ	
後 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	Excel作成①	Excel表作成	
2	Excel作成②	四則演算方法 オートフィル 合計①	
3	Excel作成③	四則演算方法 オートフィル 合計②	
4	Excel作成④	関数 平均最大最小 count counta 絶対セル参照 割合①	
5	Excel作成⑤	関数 平均最大最小 count counta 絶対セル参照 割合②	
6	課題①	Excel課題①	
7	Excel作成⑥	Excel課題①解説	
8	Excel作成⑦	四捨五入など	
9	Excel作成⑧	罫線	
10	課題②	Excel課題②	
11	Excel作成⑨	Excel課題②解説	
12	Excel作成⑩	グラフ書式各種①	
13	Excel作成⑪	グラフ書式各種②	
14	Excel作成⑫	グラフ書式各種③	
15	課題③	Excel課題③ (グラフ)	
16	Excel作成⑭	Excel課題③ (グラフ) 解説	
17	Excel作成⑮	if関数	
18	まとめ	まとめ	

専門科目	生命倫理・動物福祉	1学年	前後期
目的及び留意点	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 教科書4巻		
指 導 内 容			
前 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	生命倫理の概念とさまざまな動物観①	生命倫理の考え方、動物に対する考え方・影響を与える要因	
2	生命倫理の概念とさまざまな動物観②	動物観の歴史の変遷	
3	生命倫理の概念とさまざまな動物観③	動物観の歴史の変遷	
4	動物福祉の概念①	動物福祉とは	
5	動物福祉の概念②	近代の動物愛護運動	
6	動物福祉の概念③	近代の動物愛護運動	
7	動物福祉の概念④	現代の動物愛護運動	
8	動物福祉の概念⑤	現代の動物愛護運動	
9	動物福祉の概念⑥	動物の権利 (animal rights) と動物福祉 (animal welfare)	
10	動物福祉の概念⑦	日本における動物愛護と世界における動物福祉	
11	動物福祉の概念⑧	動物病院での安楽死の考え方	
12	動物福祉の評価①	動物福祉の評価とは	
13	動物福祉の評価②	動物福祉の生理学的指標	
14	動物福祉の評価③	動物福祉の行動学的指標	
15	動物福祉と社会①	動物福祉と社会、法律と動物福祉	
16	動物福祉と社会②	法律と動物福祉	
17	動物福祉と社会③	動物福祉教育	
18	動物福祉と社会④	動物保護活動	
後 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	愛玩動物の福祉①	愛玩動物の飼育の現状と福祉	
2	愛玩動物の福祉②	家庭での適正飼養と動物福祉上の問題	
3	愛玩動物の福祉③	愛玩動物の繁殖・流通・利用に関する福祉上の問題	
4	愛玩動物の福祉④	飼育放棄と飼い主のいない犬・猫の問題	
5	愛玩動物の福祉⑤	愛玩動物福祉のための対策	
6	愛玩動物の福祉⑥	愛玩動物福祉のための対策	
7	産業動物の福祉①	産業動物福祉改善の歴史と定義	
8	産業動物の福祉②	産業動物の飼養の概況と動物福祉の課題	
9	産業動物の福祉③	産業動物における福祉上の主たる問題	
10	産業動物の福祉④	産業動物に関する国際的福祉基準	
11	産業動物の福祉⑤	動物福祉向上の方策	
12	実験動物の福祉①	実験動物の福祉と動物実験に関する法規制、「3Rの原則」	
13	実験動物の福祉②	環境エンリッチメント、獣医学的ケア	
14	実験動物の福祉③	実験動物の苦痛の評価	
15	実験動物の福祉④	安楽死を伴わない動物実験、労働安全衛生	
16	展示動物および使役動物の福祉①	野生動物の福祉	
17	展示動物および使役動物の福祉②	野生動物の福祉に関する諸問題	
18	展示動物および使役動物の福祉③	対策と課題	

専門科目	動物形態機能学	1学年	前後期
目的及 留意 点	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。		
評価方法	筆記試験、小テスト		
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻		
指 導 内 容			
前 期 (4時限)			
週	教程	教程内容	
1	生命のすがた	細胞の構造	
2	生命のすがた	DNAの働き・構造	
3	生命のすがた	上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について	
4	外皮系	皮膚の構造、皮膚の付属器官	
5	運動器	骨格の形状、構造、名称	
6	運動器	関節の構造と働き	
7	運動器	筋肉の分類と構造、収縮機構	
8	消化器	消化器の構造と機能	
9	消化器	唾液腺、肝臓、膵臓の構造と機能	
10	消化器	消化と吸収の仕組み	
11	循環器	心臓の構造と心機能	
12	循環器	心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導	
13	循環器	心機能の調節、血管の構造、血圧調節	
14	血液と造血器	血液成分と血漿成分、赤血球の構造・機能	
15	血液と造血器	白血球・血小板の構造・機能、血液凝固・繊維素溶解系	
16	呼吸器	呼吸器の構造、換気の仕組み	
17	呼吸器	肺胞におけるガス交換、呼吸運動の調節機構	
18	前期総括	前期のまとめ	
後 期 (4時限)			
週	教程	教程内容	
1	泌尿器系	腎臓・ネフロン構造と機能	
2	泌尿器系	電解質バランスと酸塩基平衡	
3	泌尿器系	尿細管における再吸収と分泌、集合管での尿濃縮	
4	内分泌とホルモン	内分泌の定義、ホルモンの性質、フィードバック機構	
5	内分泌とホルモン	主な内分泌臓器の構造と機能、ホルモンの作用と標的臓器	
6	内分泌とホルモン	主な内分泌臓器の構造と機能、ホルモンの作用と標的臓器	
7	脳と神経	ニューロンの構造と活動電位、シナプス伝導	
8	脳と神経	脳の構造と機能	
9	脳と神経	脊髄の構造と機能	
10	脳と神経	体性神経の構成と機能	
11	脳と神経	自律神経の構成と機能	
12	感覚器	体性感覚と特殊感覚について	
13	感覚器	皮膚感覚、視覚について 各臓器の構造、感覚の伝達	
14	感覚器	聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚 各臓器の構造、感覚の伝達	
15	代謝	酵素・補酵素、代謝にかかわるたんぱく質	
16	代謝	糖質の代謝	
17	代謝	たんぱく質・脂質の代謝	
18	後期総括	後期のまとめ	

専門科目	動物栄養学	1学年	後期
目的及び留意点	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患事の違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	犬と猫の栄養学 第2版		
指 導 内 容			
後 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	犬と猫の基礎栄養	栄養と栄養素	
2	犬と猫の基礎栄養	水のはたらき	
3	犬と猫の基礎栄養	水分要求量の計算方法と具体例	
4	犬と猫の基礎栄養	糖質と繊維質の性質と特性	
5	犬と猫の基礎栄養	タンパク質の性質と特性	
6	犬と猫の基礎栄養	脂質の性質と特性	
7	犬と猫の基礎栄養	ビタミンの性質と特性	
8	犬と猫の基礎栄養	ミネラルの性質と特性	
9	犬と猫の基礎栄養	健康維持と栄養	
10	犬と猫の基礎栄養	栄養素の不足と過剰について	
11	犬と猫の基礎栄養	犬と猫の栄養特性、犬と猫に与えてはいけないもの	
12	栄養要求量	栄養基準について	
13	栄養要求量	エネルギー評価法	
14	栄養要求量	栄養要求量ガイドライン	
15	栄養要求量	エネルギーの分類、エネルギーバランス	
16	栄養要求量	RER, DERの算出方法	
17	栄養要求量	係数の付け方とDERの考え方	
18	栄養要求量	給与量の算出方法	

専門科目	動物看護関連法規	1学年	前期
目的及び留意点	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	プリント		
指 導 内 容			
前 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	法学総論	法の基礎知識 (制定法、公法、私法)	
2	獣医療関連行政法規①	獣医師法① (裨医師の任務、名称・業務の独占)	
3	獣医療関連行政法規②	獣医師法② (獣医師の義務)	
4	獣医療関連行政法規③	獣医療法① (目的、定義、診療施設)	
5	獣医療関連行政法規④	獣医療法② (広告の制限)	
6	愛玩動物看護師法①	愛玩動物看護師法① (趣旨、目的、定義)	
7	愛玩動物看護師法②	愛玩動物看護師法② (愛玩動物看護師の業務)	
8	公衆衛生行政法規①	感染症法① (目的、基本理念、国民・獣医療関係者の責務)	
9	公衆衛生行政法規②	感染症法② (法で定める感染症、情報の収集・公表、動物の輸入)	
10	公衆衛生行政法規③	狂犬病予防法① (目的、適用範囲、飼育者の義務)	
11	公衆衛生行政法規④	狂犬病予防法② (輸出入検疫、狂犬病発生時の措置)	
12	薬事行政法規①	医薬品医療機器等法① (目的、読み替え規定、定義)	
13	薬事行政法規②	医薬品医療機器等法② (医薬品の製造販売)	
14	薬事行政法規③	医薬品医療機器等法③ (医薬品等の取扱い)	
15	薬事行政法規④	麻薬及び向精神薬取締法① (目的、定義、施用者・管理者免許)	
16	薬事行政法規⑤	麻薬及び向精神薬取締法② (施用者の義務)	
17	薬事行政法規⑥	毒物及び劇物取締法 (目的、禁止規定、毒物又は劇物の取扱い)	
18	前期総括	前期総括	

専門科目	動物看護学概論	1学年	前期
目的及び留意点	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	プリント		
指 導 内 容			
前 期 (2時限)			
週	教程	教程内容	
1	獣医療の歴史と概念	獣医療の歴史	
2	動物看護の基本となる概念	動物看護の歴史と概念	
3	動物看護の基本となる概念	動物にとっての福祉・健康・QOL	
4	動物看護の基本となる概念	獣医療倫理	
5	動物看護の基本となる概念	愛玩動物看護者の倫理綱領	
6	動物看護の基本となる概念	愛玩動物看護者の倫理綱領	
7	動物看護の提供体制	社会における動物病院の役割	
8	動物看護の提供体制	一次診療と二次診療、緊急獣医療の役割と連携	
9	動物看護の提供体制	インフォームドコンセント	
10	動物看護の提供体制	セカンドオピニオン、守秘義務	
11	動物看護の提供体制	バイオエシックス、パターンリズム	
12	動物看護の提供体制	診療記録と動物看護記録の作成、保存義務について	
13	動物看護の提供体制	職場における労働安全衛生、危険の防止や対処法	
14	愛玩動物看護師の社会的立場	愛玩動物看護師の職能団体、代表的な組織や団体	
15	愛玩動物看護師の社会的立場	愛玩動物看護師の資格制度と職務範囲、資格認定機構	
16	愛玩動物看護師の社会的立場	国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて	
17	愛玩動物看護師の社会的立場	国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて	
18	まとめ	前期定期試験対策	

専門科目	動物病理学	1学年	後期
目的及び留意点	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 教科書2巻		
指 導 内 容			
後 期 (2時限)			
週	教程	教程内容	
1	動物病理学の基礎	病理学とは、病理検査技術（病理検査の実施手順・標本作成方法）	
2	動物病理学の基礎	病気の原因（内因と外因）	
3	傷害と細胞死	代謝障害と変性	
4	傷害と細胞死	代謝障害と変性	
5	傷害と細胞死	萎縮と低形成、壊死（ネクロシス）・アポトーシス	
6	細胞や組織の修復と再生	細胞の増殖のメカニズム、過形成と肥大	
7	細胞や組織の修復と再生	化生、再生、創傷治癒	
8	細胞や組織の修復と再生	創傷治癒、器質化	
9	循環障害	血液の循環障害とリンパ管循環（水腫/浮腫・うっ血/充血/虚血）	
10	循環障害	血液の循環障害とリンパ管循環（出血/血液凝固/止血）	
11	循環障害	血液の循環障害とリンパ管循環（血栓/塞栓/梗塞・DIC・ショック・脱水）	
12	炎症	炎症の定義（5大主徴）、原因	
13	炎症	炎症による形態的变化、炎症の分類、免疫異常	
14	腫瘍	腫瘍の定義、形態学的特徴、分類と命名	
15	腫瘍	腫瘍の増殖、宿主への影響、腫瘍免疫	
16	腫瘍	腫瘍の原因、メカニズム、種類	
17	腫瘍	腫瘍の種類	
18	先天異常	先天異常とは、原因（遺伝的・環境的）、奇形	

専門科目	公衆衛生学	1学年	前後期
目的及び留意点	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病の予防について理解する。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	プリント		
指 導 内 容			
前 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	ガイダンス		
2	愛玩動物看護師と公衆衛生	愛玩動物看護師と公衆衛生	
3	公衆衛生の目的	公衆衛生の定義	
4	公衆衛生の目的	公衆衛生の定義	
5	公衆衛生行政と獣医師	One world, one health	
6	公衆衛生行政と獣医師	人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生	
7	国民衛生の動向	人口動態統計	
8	国民衛生の動向	人口動態統計	
9	愛玩動物看護師と公衆衛生学	公衆衛生の必要性	
10	愛玩動物看護師と公衆衛生学	公衆衛生の必要性	
11	疫学と疾病予防	疾病及び健康障害の発生要因	
12	疫学とは	疫学とは	
13	健康障害の発生要因	集団における病気の発生の原因	
14	疫学の指標	発生率、有病率、致命率、生存率	
15	疫学の指標	リスク因子	
16	疫学研究方法	疫学サイクル	
17	疫学研究方法	疫学サイクル、記述疫学	
18	前期 まとめ	分析疫学、介入研究、標本の抽出	
後 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	感染と流行	感染、感染成立の3大要因	
2	感染症対策	感染症の制御	
3	感染症対策	抗菌性物質の慎重な使用	
4	非感染症の疫学	非感染症の疫学	
5	非感染症の疫学	非感染症の疫学	
6	サーベイランス	能動的・受動的サーベイランス	
7	サーベイランス	影響する要因	
8	人獣共通感染症（動物由来感染症）	人獣共通感染症（動物由来感染症）	
9	病原体等に関する安全対策	バイオセーフティー	
10	病原体等に関する安全対策	バイオハザード対策、バイオセキュリティ	
11	ウイルス、細菌、リケッチア、真菌	ウイルス性人獣共通感染症、細菌性人獣共通感染症、	
12	ウイルス、細菌、リケッチア、真菌	真菌性人獣共通感染症	
13	寄生虫	原虫性人獣共通感染症	
14	寄生虫	線虫類、吸虫類、条虫類	
15	新興感染症と再興感染症	新興感染症と再興感染症	
16	狂犬病予防の重要性	狂犬病 感染系と、症状	
17	狂犬病予防の重要性	予防とわが国の現状	
18	後期 まとめ		

専門科目	動物感染症	1学年	前後期
目的及び留意点	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、衛生管理、予防などの感染症対策の基礎について理解する。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	プリント		
指 導 内 容			
前 期 (2時限)			
週	教程	教程内容	
1	微生物の分類と特徴	細菌の分類、形態、増殖方法および病原性	
2	微生物の分類と特徴	細菌によって引き起こされる主な病気 (概要)	
3	微生物の分類と特徴	ウイルスの分類、形態、増殖方法および病原性	
4	微生物の分類と特徴	ウイルスによって引き起こされる主な病気 (概要)	
5	微生物の分類と特徴	ウイルスによって引き起こされる主な病気 (概要)	
6	微生物の分類と特徴	真菌の分類、形態、増殖方法および病原性	
7	微生物の分類と特徴	真菌によって引き起こされる主な病気 (概要)	
8	微生物の分類と特徴	病原体の感染経路と伝播様式、感染成立の要因	
9	動物感染症	消毒法と滅菌法	
10	動物感染症	消毒法と滅菌法	
11	寄生虫の分類と特徴	原虫類の分類、形態、生活環および病原性	
12	寄生虫の分類と特徴	吸虫類の分類、形態、生活環および病原性	
13	寄生虫の分類と特徴	線虫類の分類、形態、生活環および病原性	
14	寄生虫の分類と特徴	条虫類の分類、形態生活環および病原性	
15	寄生虫の分類と特徴	ノミ類とダニ類の分類、形態、生活環および病原性	
16	寄生虫の分類と特徴	寄生虫疾患の検査、診断方法	
17	寄生虫の分類と特徴	駆虫薬や駆除剤の使用法	
18	寄生虫の分類と特徴	駆虫薬や駆除剤の使用法	
後 期 (2時限)			
週	教程	教程内容	
1	主な感染症	症状、治療法、予防法	
2	主な感染症	症状、治療法、予防法	
3	主な感染症	症状、治療法、予防法	
4	主な感染症	症状、治療法、予防法	
5	主な感染症	症状、治療法、予防法	
6	主な感染症	症状、治療法、予防法	
7	主な感染症	症状、治療法、予防法	
8	主な感染症	症状、治療法、予防法	
9	主な感染症	症状、治療法、予防法	
10	主な感染症	症状、治療法、予防法	
11	主な感染症	症状、治療法、予防法	
12	主な感染症	症状、治療法、予防法	
13	主な感染症	症状、治療法、予防法	
14	寄生虫学	フィラリア検査	
15	寄生虫学	原虫類の顕微鏡による観察	
16	寄生虫学	内部寄生虫の顕微鏡による観察	
17	寄生虫学	外部寄生虫の顕微鏡による観察	
18	寄生虫学	アニサキス	

専門科目	動物内科看護学	1学年	前後期
目的及び留意点	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、初見の記録等について理解する。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版		
指 導 内 容			
前 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	ガイダンス	動物を看護するにあたり	
2	診療補助に必要な技術	診療時における愛玩動物看護師の役割	
3	動物の健康保持・増進	入院動物の日常管理	
4	動物の健康保持・増進	動物種による管理上の注意点	
5	動物の健康保持・増進	排泄の管理	
6	動物の健康保持・増進	ワクチネーション	
7	動物の健康保持・増進	外部寄生虫の確認	
8	動物の健康保持・増進	老齢動物の入院看護	
9	動物の健康保持・増進	幼若動物の入院看護	
10	動物の健康保持・増進	身体検査	
11	動物の健康保持・増進	身体検査	
12	動物の健康保持・増進	身体検査、アセスメント	
13	対動物関係の技術	動物へのアプローチ	
14	対動物関係の技術	安全な散歩および運動技術	
15	対動物関係の技術	ハンドリングと保定法	
16	診療補助に必要な技術	動物の処置や検査、状態にあわせた保定法	
17	診療補助に必要な技術	動物の処置や検査、状態にあわせた保定法	
18	まとめ	前期試験対策	
後 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	復習	前期試験の解説と復習	
2	衛生・安全管理と環境	標準予防の実際	
3	衛生・安全管理と環境	検疫と感染	
4	衛生・安全管理と環境	感染コントロール	
5	衛生・安全管理と環境	安全管理対策	
6	衛生・安全管理と環境	動物飼養管理中の事故防止	
7	衛生・安全管理と環境	動物に応じた環境整備	
8	衛生・安全管理と環境	動物に応じた入院管理	
9	検査・処置に必要な技術	注射器の取り扱いおよび管理方法	
10	検査・処置に必要な技術	採血の目的	
11	検査・処置に必要な技術	確認テスト	
12	検査・処置に必要な技術	各カテーテルについて理解する	
13	検査・処置に必要な技術	カテーテルの挿入・留置および管理 (静脈内カテーテル)	
14	検査・処置に必要な技術	カテーテルの挿入・留置および管理 (経鼻カテーテル)	
15	検査・処置に必要な技術	カテーテルの挿入・留置および管理 (尿道カテーテル)	
16	検査・処置に必要な技術	カテーテルの挿入・留置および管理 (胃カテーテル)	
17	検査・処置に必要な技術	確認テスト	
18	まとめ	前期試験対策	

専門科目	動物外科看護学	1学年	前後期
目的及び留意点	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理まで周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する		
評価方法	筆記試験		
テキスト	EDUWARD Press動物看護実習テキスト 授業内プリント		
指 導 内 容			
前 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	術前準備	術前手続き（飼い主への説明、承諾など）や術前検査について理解する	
2	術前準備	無菌的処置の重要性について理解する	
3	術前準備	手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する	
4	術前準備	手術器具の準備と滅菌法について理解する	
5	術前準備	手術室の機器類（無影灯、電気メス本体など）、準備について理解する	
6	術前準備	機械台の準備について理解する	
7	術前準備	動物の適切なポジショニングについて理解する	
8	術前準備	術野の消毒について理解する	
9	術前準備	手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する	
10	術前準備	手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する	
11	術前準備	手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する	
12	術前準備	代表的な手術器具（メス、鉗子など）の名称と使用法について理解する	
13	術前準備	代表的な手術器具（メス、鉗子など）の名称と使用法について理解する	
14	術前準備	代表的な手術器具（メス、鉗子など）の名称と使用法について理解する	
15	術前準備	代表的な縫合剤（縫合針・縫合糸）の分類と使用法について理解する	
16	術前準備	代表的な縫合剤（縫合針・縫合糸）の分類と使用法について理解する	
17	術前準備	代表的な歯科器具の名称と使用法について理解する	
18	術前準備	代表的な歯科器具の名称と使用法について理解する	
後 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	麻酔	麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する	
2	麻酔	麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する	
3	麻酔	麻酔リスクの評価（ASA分類など）について理解する	
4	麻酔	麻酔リスクの評価（ASA分類など）について理解する	
5	麻酔	麻酔前投与（鎮静など）について理解する	
6	麻酔	麻酔前投与（鎮静など）について理解する	
7	麻酔	注射麻酔（局所麻酔を含む）の手技について理解する	
8	麻酔	吸入麻酔の手技について理解する	
9	麻酔	導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する	
10	麻酔	導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する	
11	麻酔	麻酔器について理解する	
12	麻酔	麻酔器について理解する	
13	麻酔	麻酔器について理解する	
14	麻酔	麻酔監視項目（心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼吸終末二酸化炭素濃度など）の監視方法、意義について理解する	
15	麻酔	麻酔監視項目（心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼吸終末二酸化炭素濃度など）の監視方法、意義について理解する	
16	麻酔	麻酔監視項目（心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼吸終末二酸化炭素濃度など）の監視方法、意義について理解する	
17	麻酔	麻酔監視項目（心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼吸終末二酸化炭素濃度など）の監視方法、意義について理解する	
18	麻酔	麻酔記録の作成法について理解する	

専門科目	動物臨床検査学	1学年	前後期
目的及び留意点	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 実習テキスト 第3版		
指 導 内 容			
前 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	臨床検査の基礎	臨床検査における愛玩動物看護師の役割	
2	臨床検査の基礎	臨床検査の種類	
3	臨床検査の基礎	主な検査機器	
4	基準値の考え方	基準値、感度、特異度、精度管理	
5	基準値の考え方	基準値、感度、特異度、精度管理	
6	検体採取法	各検体の採取法・保存方法	
7	臨床検査の基礎	まとめ	
8	糞便検査	糞便検査の目的	
9	糞便検査	糞便検査の概論	
10	糞便検査	採便方法とその取扱い・検査項目について	
11	糞便検査	手技・評価方法について	
12	糞便検査	集卵法について	
13	糞便検査	虫卵・原虫について	
14	尿検査	尿検査の概論	
15	尿検査	物理学的検査	
16	尿検査	化学的性状検査	
17	尿検査	手技・評価方法について	
18	尿検査	尿検査について	
後 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	血液検査	血液検査の概論	
2	血液検査	採血方法・取扱いについて	
3	血液検査	CBCの検査項目について①	
4	血液検査	CBCの検査項目について②	
5	血液検査	血液塗抹検査について①	
6	血液検査	血液塗抹検査について②	
7	血液検査	血液凝固系検査について①	
8	血液検査	血液凝固系検査について②	
9	血液検査	血液ガス検査について	
10	血液検査	生化学検査項目について①	
11	血液検査	生化学検査項目について②	
12	血液検査	生化学検査項目について③	
13	細胞診と病理組織検査	細胞診断の目的と方法	
14	細胞診と病理組織検査	病理組織検査の検体の取り扱いについて	
15	遺伝子検査	遺伝子検査の目的	
16	遺伝子検査	遺伝子検査の検体採取と取り扱いについて	
17	遺伝子検査	遺伝子検査の応用例	
18	まとめ	まとめ	

専門科目	コミュニケーショントレーニング	1学年	前後期
目的及 留意 点	職業人および実生活でも必要とされるコミュニケーションの基本について、網羅的かつ実践的に学び、習得する。獣医療で必要な問診・傾聴・カルテの記入などが基本的な技術を身に付ける。		
評価方法	授業内発表、課題		
テキスト	なし		
指 導 内 容			
前 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	オリエンテーション	オリエンテーション、自己紹介	
2	コミュニケーションの目的	コミュニケーションの目的	
3	きくスキル	3つの「きく」	
4	きくスキル	傾聴ロールプレイング	
5	きくスキル	質問の技術	
6	きくスキル	開かれた質問、閉ざされた質問	
7	話すスキル	発声の基本	
8	話すスキル	抑揚、強調、間の取り方	
9	話すスキル	朗読コンテスト	
10	話すスキル	朗読コンテスト	
11	言葉遣い・敬語	丁寧な言葉遣い	
12	言葉遣い・敬語	尊敬語	
13	言葉遣い・敬語	謙譲語	
14	言葉遣い・敬語	敬語ロールプレイング	
15	伝えるスキル	PREP法	
16	伝えるスキル	ホールバート法	
17	伝えるスキル	「自分のすきなもの」発表	
18	伝えるスキル	「自分のすきなもの」発表	
後 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	獣医療面接	獣医療面接とは	
2	獣医療面接	傾聴、共感、受容	
3	獣医療面接	獣医療での開かれた質問、閉ざされた質問	
4	獣医療面接	問診・聞き取り・要約の練習	
5	獣医療面接	問診・聞き取り・要約の練習	
6	獣医療面接	問診・聞き取り・要約の練習	
7	カルテの記入と管理	カルテとは 記載のルール	
8	カルテの記入と管理	POS POMRについて	
9	カルテの記入と管理	SOAP方式に沿ったカルテの記載	
10	カルテの記入と管理	マスターシート記入練習	
11	カルテの記入と管理	マスターシート記入練習	
12	カルテの記入と管理	カルテ用語一覧	
13	カルテの記入と管理	プログレスノート記入練習	
14	カルテの記入と管理	プログレスノート記入練習	
15	院内業務	動物看護師の業務 受付	
16	院内業務	物品購入・在庫管理	
17	院内業務	ペット保険について	
18	後期総括	後期のまとめ	

専門科目	動物美容学(器具演習)	1学年	前後期
目的及び留意点	基本的なグルーミング技法や各犬種のトリミング方法を学び、実習において実践する。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	最新犬種図鑑 写真で見る犬種とスタンダード、プリント		
指 導 内 容			
前 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	器具演習①	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
2	器具演習②	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
3	器具演習③	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
4	器具演習④	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
5	器具演習⑤	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
6	器具演習⑥	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
7	器具演習⑦	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
8	器具演習⑧	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
9	器具演習⑨	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
10	器具演習⑩	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
11	器具演習⑪	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
12	器具演習⑫	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
13	器具演習⑬	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
14	器具演習⑭	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
15	器具演習⑮	スリッカーブラシ、コーム、ピンブラシの練習	
16	テディベアのペットクリップ	テディベアのペットクリップの説明	
17	テディベアのペットクリップ	ペットクリップのカット手順	
18	テディベアのペットクリップ	ペットクリップのカット手順	
後 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	シーザー	シーザーのペットクリップの説明	
2	シーザー	ペットクリップのカット手順	
3	シーザー	ペットクリップのカット手順	
4	プードルのラムクリップ	ラムクリップの説明	
5	プードルのラムクリップ	ラムクリップ(カット)説明	
6	プードルのラムクリップ	ラムクリップ(カット)説明	
7	プードルのラムクリップ	ラムクリップ(カット)説明	
8	ミニチュア・シュナウザー	M・シュナウザーのペットクリップの説明	
9	ミニチュア・シュナウザー	ペットクリップのカット手順	
10	ミニチュア・シュナウザー	ペットクリップのカット手順	
11	ミニチュア・シュナウザー	ペットクリップのカット手順	
12	アメリカン・コッカー・スパニエル	A・コッカーのペットクリップの説明	
13	アメリカン・コッカー・スパニエル	A・コッカーのトリミング方法	
14	アメリカン・コッカー・スパニエル	A・コッカーのトリミング方法	
15	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリアのペットクリップの説明	
16	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリアのペットクリップのトリミング方法	
17	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリアのペットクリップのトリミング方法	
18	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリアのペットクリップのトリミング方法	

実習科目	動物美容実習	1学年	前後期
目的及び留意点	器具の使用方法やグルーミングを実演で学び、また実習を通じて基本的なトリミングの習得までを目的とする。		
評価方法	実技試験		
テキスト	ドッググルーマー		
指 導 内 容			
前 期 (5時限)			
週	教程	教程内容	
1	スタンダード	2人に1頭 (鋏を使う前の段階まで)	
2	スタンダード	2人に1頭 (鋏を使う前の段階まで)	
3	スタンダード	2人に1頭 (鋏を使う前の段階まで)	
4	スタンダード	2人に1頭 (鋏を使う前の段階まで)	
5	スタンダード	2人に1頭 (鋏を使う前の段階まで)	
6	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
7	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
8	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
9	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
10	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
11	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
12	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
13	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
14	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
15	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
16	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
17	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
18	グルーミング	2人に1頭 (鋏を合格した人からカット開始)	
後 期 (5時限)			
週	教程	教程内容	
1	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
2	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
3	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
4	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
5	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
6	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
7	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
8	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
9	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
10	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
11	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
12	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
13	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
14	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
15	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
16	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
17	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	
18	グルーミング	2～1人に1頭 (さまざまな犬種のトリミング)	

実習科目	動物形態機能学実習	1学年	前後期
目的及び留意点	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ		
評価方法	筆記試験		
テキスト	EDUWARD Press動物看護実習テキスト、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻		
指 導 内 容			
前 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	運動器	骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する	
2	運動器	骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する	
3	運動器	骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する	
4	顕微鏡の取り扱い	顕微鏡各部位の名称、鏡検条件（倍率など）について理解する	
5	顕微鏡の取り扱い	顕微鏡各部位の名称、鏡検条件（倍率など）について理解する	
6	顕微鏡の取り扱い	顕微鏡の適切な操作法について習得する	
7	顕微鏡の取り扱い	顕微鏡の適切な管理法について習得する	
8	皮膚について	皮膚の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
9	皮膚について	皮膚の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
10	皮膚について	皮膚の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
11	骨・軟骨・筋肉について	骨・軟骨・筋肉の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
12	骨・軟骨・筋肉について	骨・軟骨・筋肉の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
13	骨・軟骨・筋肉について	骨・軟骨・筋肉の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
14	心臓（循環器）	心臓の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
15	心臓（循環器）	心臓の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
16	心臓（循環器）	心臓の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
17	泌尿器（主に臓）	腎臓の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
18	泌尿器（主に臓）	腎臓の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
後 期 (1時限)			
週	教程	教程内容	
1	生殖器	雌雄差について理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
2	生殖器	雌雄差について理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
3	生殖器	雌雄差について理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
4	生殖器	雌雄差について理解した上で、組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する	
5	呼吸器	呼吸器の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で鏡検し、特徴について理解する	
6	呼吸器	呼吸器の構造と生理機能を理解した上で、組織像を顕微鏡で鏡検し、特徴について理解する	
7	消化器（口～肛門）	消化器の構造と生理機能を理解した上で、組織を鏡検し、特徴について理解する	
8	消化器（口～肛門）	消化器の構造と生理機能を理解した上で、組織を鏡検し、特徴について理解する	
9	消化器（口～肛門）	消化器の構造と生理機能を理解した上で、組織を鏡検し、特徴について理解する	
10	消化器（口～肛門）	消化器の構造と生理機能を理解した上で、組織を鏡検し、特徴について理解する	
11	消化腺（唾液腺、肝臓、すい臓）	消化器の構造と生理機能を理解した上で、組織を鏡検し、特徴について理解する	
12	消化腺（唾液腺、肝臓、すい臓）	消化器の構造と生理機能を理解した上で、組織を鏡検し、特徴について理解する	
13	消化腺（唾液腺、肝臓、すい臓）	消化器の構造と生理機能を理解した上で、組織を鏡検し、特徴について理解する	
14	内分泌（甲状腺、副腎、すい臓）	内分泌の構造と生理機能を理解した上で、組織を鏡検し、特徴について理解する	
15	内分泌（甲状腺、副腎、すい臓）	内分泌の構造と生理機能を理解した上で、組織を鏡検し、特徴について理解する	
16	内分泌（甲状腺、副腎、すい臓）	内分泌の構造と生理機能を理解した上で、組織を鏡検し、特徴について理解する	
17	内分泌（甲状腺、副腎、すい臓）	内分泌の構造と生理機能を理解した上で、組織を鏡検し、特徴について理解する	
18	総括	1年間のまとめ	

実習科目	動物内科看護学実習	1学年	前後期
目的及び留意点	内科診療に必要ななど、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
評価方法	筆記試験・実技試験		
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版		
指 導 内 容			
前 期 (3時限)			
週	教程	教程内容	
1	ガイダンス	実習の心構え、衛生管理 など	
2	動物看護師の役割、保定と抱き方	動物看護師の役割とは・保定とバリケンから出す	
3	保定法	犬座位、立位、伏臥位・体重測定	
4	一般身体検査	TPR、保定の復習	
5	動物の観察、一般状態の把握	口腔内、可視粘膜などの観察・BCS・聴診器	
6	動物の観察、視診、触診	リンパ節の触診、横臥位・仰臥位	
7	レントゲン検査	レントゲンの基礎知識と準備	
8	心電図、超音波検査	心電図・超音波検査の基礎知識と準備	
9	動物の観察、耳	耳の構造、耳道検査の保定、耳道洗浄の仕方	
10	動物の観察、眼	眼の構造、眼検査の保定、シルマーティアテストなど	
11	注射法	注射薬の種類と準備	
12	投薬法	薬の形状と投薬時間、投薬方法	
13	実技復習	保定総復習・試験概要	
14	実技復習	保定法復習	
15	実技復習	保定法復習	
16	実技復習	身体検査を行う（触診・聴診・視診）	
17	実技復習	注射法復習	
18	試験	前期試験（実技試験、筆記試験）	
後 期 (3時限)			
週	教程	教程内容	
1	保定法	前期の復習	
2	採血と静脈注射	採血部位の名称と保定	
3	採血と静脈注射	採血の準備と分注の仕方、採血の実施	
4	採血と静脈注射	採血の保定、採血の手技	
5	採血と静脈注射	採血の保定、採血の手技	
6	静脈内カテーテル	静脈内カテーテルの準備と保定	
7	静脈内カテーテル	静脈内カテーテルの設置	
8	静脈内カテーテル	静脈内カテーテルの設置	
9	静脈内カテーテル	静脈内カテーテルの設置	
10	輸液	輸液ポンプの使い方	
11	大型犬の保定	輸液ポンプの使い方	
12	保定法	大型犬の保定など 応用編	
13	実技復習	採血の保定復習	
14	実技復習	義手を用いた採血	
15	実技復習	義手を用いた留置針設置	
16	実技復習	義手を用いた留置針設置	
17	統括	統括	
18	試験	後期試験（実技試験、筆記試験）	

実習科目	動物臨床検査学実習	1学年	前後期
目的及び留意点	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。		
評価方法	筆記試験・実技試験		
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 実習テキスト 第3版		
指 導 内 容			
前 期 (3時限)			
週	教程	教程内容	
1	遠心分離器について	遠心分離器の名称・操作方法・メンテナンスについて	
2	スポイト・マイクロピペット	マイクロピペットの取り扱いについて	
3	屈折計について	屈折計の名称・操作方法・メンテナンスについて	
4	遠心分離・屈折計復習	遠心分離・屈折計復習	
5	顕微鏡について	顕微鏡の名称・鏡検条件について	
6	顕微鏡について	操作方法・メンテナンスについて	
7	小テスト	適切な扱いについての理解度を確認する	
8	糞便検査について①	物理学的性状検査	
9	糞便検査について②	直接塗抹法・集卵法（浮遊法）について	
10	糞便検査について③	直接塗抹法・集卵法（浮遊法）について	
11	糞便検査について④	免疫学的検査について	
12	小テスト	糞便検査の意義と手技についての理解度を確認する	
13	尿検査について①	物理学的性状検査	
14	尿検査について②	化学的検査	
15	尿検査について③	顕微鏡学的検査	
16	尿検査について④	一連の検査方法について復習	
17	尿検査について⑤	一連の検査方法について復習	
18	まとめ	前期試験	
後 期 (3時限)			
週	教程	教程内容	
1	血液検査について①	CBC検査について	
2	血液検査について②	CBC検査について	
3	血液検査について③	ヘマトクリット管検査方法について	
4	小テスト	適切な扱いについての理解度を確認する	
5	血液検査について④	血液塗抹検査について	
6	血液検査について⑤	血液塗抹検査について	
7	血液検査について⑥	血液塗抹検査について	
8	小テスト	適切な扱いについての理解度を確認する	
9	血液検査について⑦	生化学検査について	
10	血液検査について⑧	生化学検査について	
11	血液検査について⑨	生化学検査について	
12	血液検査について⑩	生化学検査について	
13	血液検査について⑪	簡易血清学的検査	
14	血液検査まとめ①	一連の検査方法について復習	
15	血液検査まとめ②	一連の検査方法について復習	
16	血液検査まとめ③	一連の検査方法について復習	
17	細胞診	細胞診	
18	まとめ	後期試験	

専門科目	講義	動物繁殖学	2学年	前後期
目的及び留意点	動物の発情、交配、妊娠、出産、産後の管理などを、犬や猫を中心に動物ごとに比較しながら学ぶ。また、繁殖上の疾病とその予防法及び治療法について理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	生殖器の形態と機能	生殖とその分類		
2	生殖器の形態と機能	生殖器の基本的なしくみ (オス)		
3	生殖器の形態と機能	生殖器の基本的なしくみ (メス)		
4	生殖器の形態と機能	生殖機能調節に関わるホルモン(総論)		
5	生殖器の形態と機能	生殖機能調節に関わるホルモン (各論)		
6	生殖器の形態と機能	生殖機能調節に関わるホルモン (各論)		
7	性周期と交配	発情徴候と発情周期 (イヌ)		
8	性周期と交配	発情徴候と発情周期 (イヌ)		
9	性周期と交配	発情徴候と発情周期 (ネコ)		
10	性周期と交配	発情徴候と発情周期 (ネコ)		
11	性周期と交配	受精と妊娠①		
12	性周期と交配	受精と妊娠②		
13	性周期と交配	受精と妊娠③		
14	妊娠と分娩	分娩と助産①		
15	妊娠と分娩	分娩と助産②		
16	妊娠と分娩	帝王切開		
17	妊娠と分娩	去勢手術		
18	妊娠と分娩	去勢手術		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	妊娠と分娩	避妊手術		
2	妊娠と分娩	避妊手術		
3	妊娠と分娩	人工授精		
4	妊娠と分娩	人工授精		
5	新生子管理	新生子期とは		
6	新生子管理	新生子期の発育過程		
7	新生子管理	新生子のための飼養環境		
8	新生子管理	新生子のための飼養環境		
9	新生子管理	新生子のための飼養環境		
10	新生子管理	新生子がかかりやすい疾患		
11	新生子管理	新生子の解剖学的特徴		
12	新生子管理	新生子の解剖学的特徴		
13	新生子管理	新生子の生理的機能		
14	新生子管理	新生子の生理的機能		
15	遺伝学概論	遺伝のメカニズム		
16	遺伝学概論	遺伝様式		
17	遺伝学概論	遺伝子疾患		
18	遺伝学概論	発生異常		

専門科目	講義	動物行動学	2学年	前後期
目的及び留意点	犬や猫の種としての行動様式を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	動物行動学の基礎	動物行動学の四つの問い (適応・進化・機構・発達)		
2	動物行動学の基礎	行動の進化と適応		
3	動物行動学の基礎	家畜化		
4	動物行動学の基礎	生得的行動		
5	動物行動学の基礎	学習行動		
6	動物行動学の基礎	脳による行動制御		
7	個体維持行動	摂食行動・飲水行動		
8	個体維持行動	排泄行動		
9	個体維持行動	身づくろい行動		
10	個体維持行動	護身行動		
11	発達過程	発達ステージ (新生児期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)		
12	発達過程	各発達ステージの行動学的特徴		
13	社会行動	生殖行動 (性行動・母性行動)		
14	社会行動	コミュニケーション行動		
15	社会行動	敵対行動		
16	社会行動	親和的行動		
17	試験	前期試験		
18	まとめ	前期まとめ		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	学習理論	行動形成		
2	学習理論	馴化		
3	学習理論	感作		
4	学習理論	古典的条件づけ		
5	学習理論	オペラント条件づけ		
6	学習理論	基本的なトレーニング法 (トイレトレーニング)		
7	学習理論	基本的なトレーニング法 (クレートトレーニング)		
8	学習理論	基本的なトレーニング法 (甘噛み対策)		
9	問題行動	問題行動の定義と要因		
10	問題行動	攻撃行動の種類、原因 (動機付け) と治療法		
11	問題行動	恐怖・不安に起因する問題行動の原因 (動機付け) と治療法		
12	問題行動	不適切な排泄行動の原因 (動機付け) と治療法		
13	問題行動	高齢性認知機能不全の原因と臨床徴候、対応法		
14	行動治療	行動診療の進め方		
15	行動治療	行動修正法と環境修正法		
16	行動治療	薬物療法		
17	試験	後期試験		
18	まとめ	後期まとめ		

専門科目	講義	動物栄養学	2学年	前後期
目的及び留意点	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患事の違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	犬と猫の栄養学			
指 導 内 容				
前 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	ペットフードについて	ペットフードの歴史		
2	ペットフードについて	ペットフードの基礎知識		
3	ペットフードについて	ペットフードラベル記載方法		
4	ペットフードについて	ペットフードの種類		
5	ペットフードについて	ペットフードの製造方法		
6	ペットフードについて	ペットフードの選び方 基本		
7	ペットフードについて	ペットフードの選び方 その他ポイント		
8	ペットフードについて	サプリメント		
9	ペットフードについて	ペットフードの法規制		
10	ライフステージ別栄養管理	成長期の栄養管理		
11	ライフステージ別栄養管理	成長期の栄養管理		
12	ライフステージ別栄養管理	維持期の栄養管理		
13	ライフステージ別栄養管理	維持期の栄養管理		
14	ライフステージ別栄養管理	妊娠期・授乳期の栄養管理		
15	ライフステージ別栄養管理	妊娠期・授乳期の栄養管理		
16	ライフステージ別栄養管理	高齢期の栄養管理		
17	ライフステージ別栄養管理	高齢期の栄養管理		
18	まとめ	前期まとめ		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	栄養指導	栄養診断について		
2	栄養指導	適正給与量の決め方		
3	栄養指導	適正給与量の決め方		
4	栄養指導	フードの選択と栄養指導		
5	栄養指導	フードの選択と栄養指導		
6	栄養指導	肥満の弊害と減量プログラム		
7	栄養指導	肥満の弊害と減量プログラム		
8	疾患と栄養の関係	療法食の基礎知識		
9	疾患と栄養の関係	慢性腎臓病の栄養管理		
10	疾患と栄養の関係	慢性腎臓病の栄養管理		
11	疾患と栄養の関係	尿石症の栄養管理		
12	疾患と栄養の関係	尿石症の栄養管理		
13	疾患と栄養の関係	尿石症の栄養管理		
14	疾患と栄養の関係	心血管系疾患の栄養管理		
15	疾患と栄養の関係	心血管系疾患の栄養管理		
16	疾患と栄養の関係	消化器疾患の栄養管理		
17	疾患と栄養の関係	消化器疾患の栄養管理		
18	疾患と栄養の関係	消化器疾患の栄養管理		

専門科目	講義	比較動物学	2学年	前後期
目的及び留意点	産業動物の各論として牛・馬・豚・羊・山羊・鶏について品種・身体・食性・飼養管理について理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	牛	ガイドランス・歴史・特性・品種		
2	牛	解剖・生理		
3	牛	解剖・生理		
4	牛	解剖・生理		
5	牛	飼養管理		
6	牛	飼養管理		
7	牛	牛に多い疾病		
8	馬	歴史・特性・品種		
9	馬	解剖・生理		
10	馬	解剖・生理		
11	馬	解剖・生理		
12	馬	飼養管理		
13	馬	飼養管理		
14	馬	馬に多い疾病		
15	豚	歴史・特性・品種		
16	豚	解剖・生理		
17	豚	飼養管理		
18	豚	豚に多い疾病		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	羊	歴史・特性・品種		
2	羊	解剖・生理		
3	羊	飼養管理		
4	羊	羊に多い疾病		
5	山羊	歴史・特性・品種		
6	山羊	解剖・生理		
7	山羊	飼養管理・山羊に多い疾病		
8	鶏	歴史・特性・品種		
9	鶏	解剖・生理		
10	鶏	解剖・生理		
11	鶏	飼養管理		
12	鶏	鶏に多い疾病		
13	畜産業とは	畜産業とは・日本の畜産		
14	畜産業の地域による特徴	畜産業の地域による特徴		
15	畜産業の生産費の構成割合	畜産業の生産費の構成割合		
16	産業動物の福祉	産業動物の問題 産業病、経営的な慣習国際的な福祉基準		
17	産業動物の社会との関わり	倫理的消費、耐性菌の問題、温暖化への対応		
18	産業動物の社会との関わり	倫理的消費、耐性菌の問題、温暖化への対応		

専門科目	講義	動物愛護・適正飼養関連法規	2学年	後期
目的及び留意点	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	愛護・適正飼養関連行政法規	動物愛護管理法① (目的、法律の対象、所有者・販売者の責務、取扱業者の規制)		
2	愛護・適正飼養関連行政法規	動物愛護管理法② (特定動物、犬及び猫の登録、罰則)		
3	愛護・適正飼養関連行政法規	ペットフード安全法① (制定の背景、目的、法律の対象、事業者の責任)		
4	愛護・適正飼養関連行政法規	ペットフード安全法② (ペットフードの安全性の確保する体制)		
5	社会福祉行政・環境衛生法規	身体障害者補助犬法① (目的、補助犬の定義、良質な補助犬の育成)		
6	社会福祉行政・環境衛生法規	身体障害者補助犬法② (アクセスの保障、医療従事者と法)		
7	社会福祉行政・環境衛生法規	廃棄物処理法 (目的、廃棄物の定義、それぞれの責務)		
8	社会福祉行政・環境衛生法規	化製場等に関する法律 (目的、獣畜の定義、規制内容、多頭飼育の許可)		
9	野生動物等に関する法律及び条約	生物多様性基本法 (目的、定義、基本原則、それぞれの責務)		
10	野生動物等に関する法律及び条約	外来生物法① (目的、特定外来生物の定義、基本方針)		
11	野生動物等に関する法律及び条約	外来生物法② (禁止事項、罰則)		
12	野生動物等に関する法律及び条約	ワシントン条約・ラムサール条約 (目的、定義、規制、附属書)		
13	野生動物等に関する法律及び条約	種の保存法① (目的、責務、定義)		
14	野生動物等に関する法律及び条約	種の保存法② (レッドリスト・レッドデータブック、禁止事項、届出)		
15	野生動物等に関する法律及び条約	鳥獣保護管理法 (目的、定義、狩猟について、規制、鳥獣保護区)		
16	野生動物等に関する法律及び条約	自然公園法 (目的、定義、それぞれの地区・地域)		
17	野生動物等に関する法律及び条約	文化財保護法 (目的、定義、天然記念物・特別天然記念物)		
18	後期総括	後期総括		

専門科目	講義	動物薬理学	2学年	前後期
目的及び留意点	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるか理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 教科書2巻・プリント			
指 導 内 容				
前 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	動物薬理学総論	薬理学概論、薬と薬理作用、医薬品の基準と分類、薬の剤形と投与方法		
2	動物薬理学総論	薬物の管理方法、薬理作用の発現機構、生体内での薬の動態(吸収、分布、代謝、排泄)		
3	動物薬理学総論	薬効に影響を与える因子、薬の有害作用、医薬品の開発		
4	処方と調剤	処方・調剤・監査、薬剤管理、薬袋の記入・服薬指導、薬歴記載		
5	神経系作用薬	自律神経作用薬の基本的事項、副交感神経興奮薬		
6	神経系作用薬	交感神経興奮薬		
7	神経系作用薬	体性神経作用薬の基本的事項、局所麻酔薬、筋弛緩薬		
8	神経系作用薬	中枢神経作用薬の基本的事項、全身麻酔薬		
9	神経系作用薬	鎮静・催眠薬、問題行動の治療薬(向精神薬)		
10	神経系作用薬	抗痙攣薬、鎮痛薬、大脳皮質興奮薬		
11	循環器系作用薬	心不全治療薬、抗不整脈薬		
12	循環器系作用薬	血管拡張薬(降圧薬)		
13	血液系作用薬	貧血の発生機序と抗貧血薬、血液凝固阻害薬		
14	血液系作用薬	血液凝固促進薬(止血薬)		
15	内分泌・代謝・免疫系作用薬	オータコイド、抗炎症薬(非ステロイド・ステロイド)		
16	内分泌・代謝・免疫系作用薬	鎮痛薬、免疫に影響を与える薬		
17	呼吸器系作用薬	呼吸興奮薬、鎮咳薬		
18	呼吸器系作用薬	抗喘息薬(気管支拡張薬)、去痰薬		
後 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	消化器系作用薬	抗潰瘍薬、消化管運動促進(調整)薬および抑制薬(鎮痙薬)		
2	消化器系作用薬	止瀉(制瀉)薬、瀉下薬(緩下薬、下剤)制吐薬と催吐薬、肝・脾疾患の治療薬		
3	内分泌・代謝計作用薬	副腎皮質疾患治療薬、甲状腺機能障害の治療薬		
4	内分泌・代謝計作用薬	糖尿病治療薬		
5	泌尿器系作用薬	利尿薬、排尿障害治療薬		
6	泌尿器系作用薬	頻尿治療薬		
7	化学療法薬	抗菌薬の選択		
8	化学療法薬	抗菌薬の種類と特徴、抗ウイルス薬		
9	化学療法薬	抗真菌薬の種類と特徴		
10	化学療法薬	寄生虫予防薬、駆虫薬		
11	化学療法薬	殺虫薬		
12	化学療法薬	消毒薬		
13	化学療法薬	消毒薬		
14	化学療法薬	悪性腫瘍について、悪性腫瘍の治療		
15	化学療法薬	悪性腫瘍治療薬(抗がん剤の分類)		
16	化学療法薬	悪性腫瘍治療薬(抗がん剤の分類)、抗腫瘍薬の使用例		
17	処方と調剤	薬用量計算、薬剤情報取集		
18	処方と調剤	薬用量計算		

専門科目	講義	動物感染症学	2学年	前後期
目的及び留意点	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、衛生管理、予防など感染症対策の基礎について理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	なし			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	微生物検査	検体採取と取り扱い		
2	微生物検査	検体採取と取り扱い		
3	微生物検査	無菌環境下での必要な主義について		
4	微生物検査	無菌環境下での必要な主義について		
5	微生物検査	微生物染色法、顕微鏡による観察法		
6	微生物検査	微生物染色法、顕微鏡による観察法		
7	微生物検査	微生物培養法		
8	微生物検査	微生物培養法		
9	微生物検査	抗原検出法		
10	微生物検査	抗原検出法		
11	微生物検査	抗体検出法		
12	微生物検査	抗体検出法		
13	微生物検査	遺伝子検出法 (PCR検査含む)		
14	微生物検査	遺伝子検出法 (PCR検査含む)		
15	微生物検査	薬剤耐性試験		
16	微生物検査	薬剤耐性試験		
17	前期統括	前期のまとめ		
18	前期定期試験	前期定期試験		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	免疫学の基礎・応用	免疫担当細胞とその役割		
2	免疫学の基礎・応用	免疫担当細胞とその役割		
3	免疫学の基礎・応用	自然免疫		
4	免疫学の基礎・応用	獲得免疫		
5	免疫学の基礎・応用	液性免疫		
6	免疫学の基礎・応用	細胞性免疫		
7	免疫学の基礎・応用	アレルギー		
8	免疫学の基礎・応用	アレルギー		
9	免疫学の基礎・応用	アレルギー		
10	免疫学の基礎・応用	アレルギー		
11	免疫学の基礎・応用	自己免疫疾患		
12	免疫学の基礎・応用	自己免疫疾患		
13	免疫学の基礎・応用	自己免疫疾患		
14	免疫学の基礎・応用	ワクチンの原理と種類、接種プログラム		
15	免疫学の基礎・応用	ワクチンの原理と種類、接種プログラム		
16	免疫学の基礎・応用	ワクチンの原理と種類、接種プログラム		
17	後期統括	後期のまとめ		
18	後期定期試験	後期定期試験		

専門科目	講義	公衆衛生学	2学年	前後期
目的及び留意点	環境及び食品衛生について学び、人の健康・増進や疾病予防への応用について理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス、公衆衛生の概要と考え方	授業の進め方・成績評価等		
2	食品衛生の概念	食糧確保と食品衛生の定義		
3	食品衛生の概念	一般原則		
4	食品衛生行政と関連法規	食品衛生業務		
5	食品衛生行政と関連法規	と畜場法・食鳥処理法		
6	食品衛生行政と関連法規	食品衛生法の概要		
7	食中毒①	食中毒の概要		
8	食中毒②	細菌性食中毒①		
9	食中毒③	細菌性食中毒②		
10	食中毒④	ウイルス性食中毒		
11	食中毒⑤	寄生虫性食中毒、		
12	食中毒⑥	自然毒による食中毒		
13	食中毒⑦	食物アレルギー		
14	食品の保存と安全性確保①	動物性食品の衛生		
15	食品の保存と安全性確保②	食品の保存法		
16	食品の保存と安全性確保③	食品安全行政の動向		
17	食品の保存と安全性確保④	食品由来の健康被害防止 (GLP、GMP)		
18	食品の保存と安全性確保⑤	食品由来の健康被害防止 (HACCP)		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	定期試験解説・後期ガイダンス	前期の定期試験解説、後期の授業概要説明		
2	環境衛生の概要	環境衛生とは		
3	地球規模の環境問題	地球温暖化、典型7公害		
4	地球規模の環境問題	地球温暖化、典型7公害		
5	地球規模の環境問題	地球温暖化、典型7公害		
6	水の衛生	浄水処理		
7	水の衛生	水質汚濁		
8	水の衛生	水系感染症		
9	生活環境	化学物質による健康被害とアレルギー		
10	生活環境	騒音、悪臭		
11	廃棄物問題	循環型社会と廃棄物		
12	廃棄物問題	感染性廃棄物		
13	廃棄物問題	廃棄物処理法と動物病院		
14	廃棄物問題	放射性物質と特定廃棄物		
15	衛生生物	衛生動物による被害と対策 (蚊、ハエ等)		
16	衛生生物	衛生動物による被害と対策 (ゴキブリ、トコジラミ等)		
17	衛生生物	衛生動物による被害と対策 (その他害虫、ネズミ等)		
18	衛生生物	動物との共生と公衆衛生		

専門科目	講義	動物内科看護学	2学年	前後期
目的及び留意点	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版			
指 導 内 容				
前 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	X線検査と CT/MRI に関わる技術	X線検査の目的と意義、原理 CR, デジタルX線撮影		
2	X線検査と CT/MRI に関わる技術	放射線防護の3原則、確定的影響、確率的影響、散乱線		
3	X線検査と CT/MRI に関わる技術	CT 及び MRI の概要について理解する		
4	検査や処置の介助に必要な技術	穿刺と吸引		
5	検査や処置の介助に必要な技術	酸素吸入		
6	検査や処置の介助に必要な技術	マイクロチップ		
7	投薬に関わる技術	薬の処方について、内服薬の使用法、□		
8	投薬に関わる技術	投薬量の計算		
9	投薬に関わる技術	投薬量の計算		
10	投薬に関わる技術	注射法について		
11	投薬に関わる技術	外用薬の使用法		
12	投薬に関わる技術	薬浴の実施方法		
13	投薬に関わる技術	投与方法とその介助		
14	投薬に関わる技術	投薬前後の注意点		
15	輸液に関わる技術	輸液の適応とリスク		
16	輸液に関わる技術	輸液計画についての理解		
17	輸液に関わる技術	各種輸液剤の特性や適応		
18	輸液に関わる技術	輸液中のモニタリング		
後 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	輸血に関わる技術	輸血の適応とリスク、輸血計画、		
2	輸血に関わる技術	クロスマッチ試験		
3	輸血に関わる技術	各種輸血剤の適応や特性		
4	輸血に関わる技術	輸血に関わる手技、副反応		
5	心電図と血圧に関わる技術	解剖学の復習		
6	心電図と血圧に関わる技術	心電図検査の目的と意義		
7	心電図と血圧に関わる技術	実施方法		
8	心電図と血圧に関わる技術	血圧測定の意義、方法		
9	内視鏡検査に関わる技術	内視鏡検査の目的と意義		
10	内視鏡検査に関わる技術	実施方法、スコープの洗浄・消毒		
11	神経学的検査に関わる技術	姿勢反応と脊髄反射		
12	神経学的検査に関わる技術	脳神経の検査法		
13	神経学的検査に関わる技術	神経学的検査の評価記録法		
14	眼科検査に関わる技術	シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義		
15	眼科検査に関わる技術	眼圧測定の方法と意義、眼底検査の方法と意義		
16	皮膚と耳の検査に関わる技術	皮膚病変の観察と記録法		
17	皮膚と耳の検査に関わる技術	皮膚掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査		
18	皮膚と耳の検査に関わる技術	ウッド灯検査と真菌培養法、外耳道の検査方法と意義		

専門科目	講義	動物外科看護学	2学年	前後期
目的及 留意点	心肺蘇生法（CPR法）に関連した救急時の動物の評価、蘇生法、モニタリング、救急薬物について習得する。各救急疾患の原因・症状・治療と処置について学習する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期（1時限）				
週	教程	教程内容		
1	エマージェンシー	緊急医療とは、トリアージ		
2	エマージェンシー	獣医療のトリアージ、トリアージの評価法		
3	エマージェンシー	救命の連鎖/RECOVERガイドライン		
4	エマージェンシー	心配停止、心配蘇生準備		
5	エマージェンシー	一次救命処置（胸部圧迫）		
6	エマージェンシー	一次救命処置（呼吸管理）		
7	エマージェンシー	二次救命処置（薬剤の投与経路）		
8	エマージェンシー	二次救命処置（使用される薬剤）		
9	エマージェンシー	二次救命処置（モニタリング）		
10	エマージェンシー	二次救命処置（徐細動）		
11	救急時の検査	FAST検査		
12	外傷・創傷管理	創傷管理		
13	外傷・創傷管理	止血法		
14	外傷・創傷管理	ドレーン装着法		
15	外傷・創傷管理	骨折や脱臼の管理		
16	総復習	統括		
17	総復習	統括		
18	試験	前期定期試験		
後 期（1時限）				
週	教程	教程内容		
1	術前検査	術前検査の種類と目的		
2	術前検査	血液検査		
3	術前検査	X線検査、心電図検査、超音波検査		
4	術前検査	小テスト		
5	去勢手術	雄性生殖器解剖		
6	去勢手術	去勢手術の目的		
7	去勢手術	去勢手術の術式		
8	去勢手術	小テスト		
9	不妊手術	雌性生殖器解剖		
10	不妊手術	不妊手術の目的		
11	不妊手術	不妊手術の術式		
12	不妊手術	不妊手術の合併症		
13	不妊手術	小テスト		
14	術後管理	術後の動物看護		
15	術後管理	痛みの評価		
16	術後管理	術創管理と包帯法		
17	術後管理	退院時の注意点と飼い主への説明事項		
18	試験	後期定期試験		

専門科目	講義	動物臨床看護学総論	2学年	前後期
目的及び留意点	動物看護過程を理解し、個別性を重視した動物看護の基本的な考え方を身につける。各ライフステージや状態に合わせた看護を提案できるようになる。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	なし			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	動物看護業務	獣医療の推移、動物看護師の役割		
2	動物看護業務	動物看護の対象、ケアの標準化（クリティカルパス）		
3	動物看護業務	入院管理の意義・入院動物の管理		
4	動物看護業務	事故防止管理（リスクマネジメント）		
5	動物看護過程の展開	動物看護過程の目的・意義		
6	動物看護過程の展開	アセスメント		
7	動物看護過程の展開	アセスメント（情報解釈）の練習		
8	動物看護過程の展開	アセスメント練習の解説		
9	動物看護過程の展開	動物看護診断 問題点の描出		
10	動物看護過程の展開	アセスメントから問題点を考える		
11	動物看護過程の展開	動物看護計画		
12	動物看護過程の展開	動物看護評価		
13	動物看護過程の展開	症例による動物看護診断・動物看護計画の立案①		
14	動物看護過程の展開	解説		
15	動物看護過程の展開	症例による動物看護診断・動物看護計画の立案②		
16	動物看護過程の展開	解説		
17	前期総括	前期のまとめ		
18	前期定期試験	前期定期試験		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	経過に基づく看護内容（概要）	急性期の動物看護		
2	経過に基づく看護内容（概要）	慢性期の動物看護		
3	経過に基づく看護内容（概要）	回復期、リハビリテーション期の動物看護		
4	経過に基づく看護内容（概要）	終末期の動物看護		
5	周術期の動物看護	術前の動物看護		
6	周術期の動物看護	術中の動物看護		
7	周術期の動物看護	術後の動物看護		
8	周術期の動物看護	痛み・ストレス管理		
9	新生子管理	新生子の扱い、哺乳の重要性		
10	新生子管理	各生理機能の発達時期		
11	老齢動物の看護	平均寿命と体に与える影響		
12	老齢動物の看護	認知症について		
13	老齢動物の看護	褥瘡管理について		
14	自宅での看護	自宅での管理について 退院計画・飼い主指導		
15	終末期看護	ターミナルケア、ホスピス、緩和ケア		
16	終末期看護	ペットロス・グリーフケア、エンゼルケア		
17	後期総括	後期のまとめ		
18	後期定期試験	後期定期試験		

専門科目	講義	動物臨床看護学各論	2学年	前後期
目的及び留意点	獣医師の診断法と治療方針のもとで動物の補助や飼い主を支える専門職として必要な知識を学習する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	総論	動物看護学各論の概要		
2	兆候や疾患の理解と対処	代表的な兆候について		
3	兆候や疾患の理解と対処	兆候の評価と記録法について		
4	兆候や疾患の理解と対処	痛みの評価について		
5	代表的な兆候	全身兆候 (食欲不振・廃絶、元気喪失、発熱、疼痛、消瘦)		
6	代表的な兆候	特異的兆候 (運動不耐・咳・心雑音・不整脈・高血圧・努力性呼吸・流涎等)		
7	代表的な兆候	特異的兆候 (運動不耐・咳・心雑音・不整脈・高血圧・努力性呼吸・流涎等)		
8	代表的な兆候	特異的病態 (尿毒症・肝性脳症・褥瘡・DIC)		
9	眼疾患	結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎、角膜潰瘍		
10	眼疾患	ブドウ膜炎、緑内障、白内障、核硬化症		
11	眼疾患	流涙症、第三眼瞼突出、異所性睫毛		
12	眼疾患	まとめ		
13	皮膚疾患	膿皮症、脂漏症		
14	皮膚疾患	アトピー性皮膚炎、ノミアレルギー性皮膚炎、食物アレルギー		
15	皮膚疾患	好酸球性肉芽腫、天疱瘡、マラセチア皮膚炎、メラノーマ		
16	皮膚疾患	外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症		
17	皮膚疾患	毛包虫症、皮膚糸状菌症		
18	皮膚疾患	まとめ		
後 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	運動器疾患	骨折		
2	運動器疾患	脱臼・膝蓋骨脱臼		
3	運動器疾患	関節炎、変形性関節症、前十字靭帯断裂、股異形成		
4	まとめ	運動器疾患まとめ		
5	消化器疾患	歯石症、不正咬合		
6	消化器疾患	歯肉炎、歯周炎、口内炎、口蓋裂		
7	消化器疾患	食道炎、食堂狭窄、巨大食道症、幽門狭窄		
8	消化器疾患	胃拡張胃捻転症候群、胃炎		
9	消化器疾患	タンパク喪失性腸症、炎症性腸疾患		
10	消化器疾患	食事反応性下痢、抗菌薬反応性下痢、腸リンパ管拡張症		
11	消化器疾患	消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積		
12	消化器疾患	巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア		
13	消化器疾患	パルボウイルス感染症		
14	消化器疾患	肝炎、肝硬変		
15	消化器疾患	肝リピドーシス、門脈体循環シャント、胆嚢粘液脳腫		
16	消化器疾患	膵炎、膵外分泌不全症		
17	消化器疾患	まとめ		
18	復習	1年間の復習		

専門科目	演習	動物医療コミュニケーション	2学年	前後期
目的及 留意 点	獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解し、患者動物・飼い主に安心感を与えられる対応を身に付ける。また、各種予防や生活指導など知識に基づいた飼い主指導ができるようになる。			
評価方法	実技試験・発表			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	院内コミュニケーション	ホスピタリティについて		
2	院内コミュニケーション	自分の印象を知る、第一印象をよくするためのポイント		
3	アイコンタクト・話すことに慣れる	1分間スピーチ		
4	アイコンタクト・話すことに慣れる	1分間スピーチ		
5	院内コミュニケーション	受付業務の流れ・受付の役割		
6	院内コミュニケーション	ケーススタディ (時間外診察、緊急の患者など)		
7	院内コミュニケーション	受付ロールプレイング		
8	院内コミュニケーション	診察室への案内・注意点		
9	院内コミュニケーション	会計業務		
10	院内コミュニケーション	薬の説明		
11	院内コミュニケーション	薬の説明・薬袋の書き方		
12	院内コミュニケーション	会計業務・薬の説明ロールプレイング		
13	院内コミュニケーション	会計業務・薬の説明ロールプレイング		
14	院内コミュニケーション	会計業務・薬の説明ロールプレイング		
15	院内コミュニケーション	電話対応の基本		
16	院内コミュニケーション	取次電話		
17	実技試験/課題制作	会計・薬の説明 実技試験/院内ポスター制作		
18	実技試験/課題制作	会計・薬の説明 実技試験/院内ポスター制作		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	院内コミュニケーション	クレームの種類・分類		
2	院内コミュニケーション	各種クレームへの対応		
3	院内コミュニケーション	クレーム対応ケーススタディ		
4	クライアントエデュケーション	クライアントエデュケーションとは		
5	クライアントエデュケーション	避妊去勢手術		
6	クライアントエデュケーション	避妊去勢手術		
7	クライアントエデュケーション	フィラリア・ノミ・ダニ予防		
8	クライアントエデュケーション	フィラリア・ノミ・ダニ予防		
9	クライアントエデュケーション	各種ワクチンプログラム (狂犬病、混合ワクチン)		
10	クライアントエデュケーション	各種ワクチンプログラム (狂犬病、混合ワクチン)		
11	クライアントエデュケーション	各種ワクチンプログラム (狂犬病、混合ワクチン)		
12	クライアントエデュケーション	日常の健康管理について (歯磨き、健康チェック)		
13	クライアントエデュケーション	日常の健康管理について (歯磨き、健康チェック)		
14	院内セミナー	飼い主向けセミナーの準備		
15	院内セミナー	飼い主向けセミナーの準備		
16	院内セミナー	飼い主向けセミナー実施		
17	院内セミナー	飼い主向けセミナー実施		
18	後期総括	後期のまとめ		

専門科目	講義	愛玩動物学	2学年	前後期
目的及び留意点	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編 第3版			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	犬の歴史・品種・飼養管理	歴 史、現在の飼育状況		
2	犬の歴史・品種・飼養管理	犬の活用		
3	犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴		
4	犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴		
5	犬の歴史・品種・飼養管理	飼養管理		
6	犬の歴史・品種・飼養管理	飼養管理		
7	犬の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング		
8	猫の歴史・品種・飼養管理	歴 史、現在の飼育状況		
9	猫の歴史・品種・飼養管理	猫の活用、特徴		
10	猫の歴史・品種・飼養管理	ライフサイクル		
11	猫の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴		
12	猫の歴史・品種・飼養管理	飼養管理		
13	猫の歴史・品種・飼養管理	飼養管理		
14	猫の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング		
15	愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	背景、主な品種、飼養管理		
16	モルモットの特徴・生態・飼養管理	背景、主な品種、飼養管理		
17	フェレットの特徴・生態・飼養管理	背景、主な品種、飼養管理		
18	前期総括	まとめ		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	エキゾチックアニマルの種類・特徴・生態	エキゾチックとは、飼育者の価値観		
2	エキゾチックアニマルの種類・特徴・生態	エキゾチックアニマルの特徴		
3	エキゾチックアニマルの種類・特徴・生態	ミニブタの特徴、グリーンイグアナの飼養管理		
4	エキゾチックアニマルの種類・特徴・生態	カエルの飼養管理、オグロプレーリードッグの特徴		
5	エキゾチックアニマルの種類・特徴・生態	ズーノーシスと法律		
6	エキゾチックアニマルの種類・特徴・生態	法律		
7	ウサギの適切な飼養管理方法	分類		
8	ウサギの適切な飼養管理方法	生態		
9	ウサギの適切な飼養管理方法	保定、意思表示、ストレス		
10	ウサギの適切な飼養管理方法	飼養管理		
11	ウサギの適切な飼養管理方法	飼養管理		
12	ウサギの適切な飼養管理方法	飼養管理		
13	ウサギの適切な飼養管理方法	飼養管理		
14	ハムスターの適切な飼養管理方法	品種、特徴		
15	ハムスターの適切な飼養管理方法	生態		
16	ハムスターの適切な飼養管理方法	飼養管理		
17	ハムスターの適切な飼養管理方法	飼養管理		
18	後期総括	後期総括		

専門科目	講義	人と動物の関係学	2学年	前後期
目的及び留意点	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 教科書4巻			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	人と動物の関わり	動物の飼養・利用の歴史		
2	人と動物の関わり	動物の飼養・利用の歴史		
3	人と動物の関わり	動物の飼養・利用の歴史		
4	人と動物の関わり	欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違		
5	人と動物の関わり	欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違		
6	人と動物の関わり	動物の飼養と利用の現状		
7	人と動物の関わり	動物の飼養と利用の現状		
8	人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待と対人暴力の連動性		
9	人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待と対人暴力の連動性		
10	人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待と対人暴力の連動性		
11	人間の福祉と愛玩動物の関わり	多頭飼育崩壊 (アニマル・ホーディング)		
12	人間の福祉と愛玩動物の関わり	多頭飼育崩壊 (アニマル・ホーディング)		
13	人間の福祉と愛玩動物の関わり	多頭飼育崩壊 (アニマル・ホーディング)		
14	人間の福祉と愛玩動物の関わり	愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵		
15	人間の福祉と愛玩動物の関わり	愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵		
16	人間の福祉と愛玩動物の関わり	人間の加齢に伴い、飼育困難となる事情		
17	試験	前期試験		
18	まとめ	前期まとめ		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物との接触が人間に与える身体的影響		
2	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物との接触が人間に与える心理的影響		
3	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動の目的と内容		
4	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在療法の目的と内容		
5	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在教育の目的と内容		
6	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動に使用される動物の公衆衛生的適性		
7	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動に使用される動物の行動学的適性		
8	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在療法に使用される動物の公衆衛生的適性		
9	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在療法に使用される動物の行動学的適性		
10	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在教育に使用される動物の公衆衛生的適性		
11	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在教育に使用される動物の行動学的適性		
12	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わり		
13	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在療法に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わり		
14	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在教育に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わり		
15	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わり		
16	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わり		
17	試験	後期試験		
18	まとめ	後期まとめ		

専門科目	演習	コミュニケーショントレーニング	2学年	前後期
目的及び留意点	獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解し、ロールプレイングを通して飼い主対応を体得する。			
評価方法	実技試験・発表			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	院内コミュニケーション	ホスピタリティについて		
2	院内コミュニケーション	自分の印象を知る、第一印象をよくするためのポイント		
3	アイコンタクト・話すことに慣れる	1分間スピーチ		
4	アイコンタクト・話すことに慣れる	1分間スピーチ		
5	院内コミュニケーション	受付業務の流れ・受付の役割		
6	院内コミュニケーション	ケーススタディ (時間外診察、緊急の患者など)		
7	院内コミュニケーション	受付ロールプレイング		
8	院内コミュニケーション	診察室への案内・注意点		
9	院内コミュニケーション	会計業務		
10	院内コミュニケーション	薬の説明		
11	院内コミュニケーション	薬の説明・薬袋の書き方		
12	院内コミュニケーション	会計業務・薬の説明ロールプレイング		
13	院内コミュニケーション	会計業務・薬の説明ロールプレイング		
14	院内コミュニケーション	会計業務・薬の説明ロールプレイング		
15	院内コミュニケーション	電話対応の基本		
16	院内コミュニケーション	取次電話		
17	実技試験/課題制作	会計・薬の説明 実技試験/院内ポスター制作		
18	実技試験/課題制作	会計・薬の説明 実技試験/院内ポスター制作		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	院内コミュニケーション	クレームの種類・分類		
2	院内コミュニケーション	各種クレームへの対応		
3	院内コミュニケーション	クレーム対応ケーススタディ		
4	クライアントエデュケーション	クライアントエデュケーションとは		
5	クライアントエデュケーション	避妊去勢手術		
6	クライアントエデュケーション	避妊去勢手術		
7	クライアントエデュケーション	フィラリア・ノミ・ダニ予防		
8	クライアントエデュケーション	フィラリア・ノミ・ダニ予防		
9	クライアントエデュケーション	各種ワクチンプログラム (狂犬病、混合ワクチン)		
10	クライアントエデュケーション	各種ワクチンプログラム (狂犬病、混合ワクチン)		
11	クライアントエデュケーション	各種ワクチンプログラム (狂犬病、混合ワクチン)		
12	クライアントエデュケーション	日常の健康管理について (歯磨き、健康チェック)		
13	クライアントエデュケーション	日常の健康管理について (歯磨き、健康チェック)		
14	院内セミナー	飼い主向けセミナーの準備		
15	院内セミナー	飼い主向けセミナーの準備		
16	院内セミナー	飼い主向けセミナー実施		
17	院内セミナー	飼い主向けセミナー実施		
18	後期総括	後期のまとめ		

実習科目	実習	動物内科看護学実習	2学年	前後期
目的及留意点	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する			
評価方法	実技試験・筆記試験			
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	診療に関わる技術	注射器の取り扱い、薬剤計算		
2	ワクチン接種	RV予防ワクチン接種		
3	ワクチン接種	RV予防ワクチン接種		
4	診療に関わる技術	投薬法、薬剤計算		
5	診療に関わる技術	輸液ポンプ		
6	診療に関わる技術	シリンジポンプ		
7	生体検査	レントゲン検査		
8	生体検査	レントゲン検査		
9	生体検査	レントゲン検査		
10	生体検査	レントゲン検査		
11	生体検査	レントゲン検査		
12	生体検査	小テスト		
13	診療に関わる技術	創傷管理、包帯法		
14	診療に関わる技術	外注検査		
15	診療に関わる技術	マイクロチップ		
16	前期統括	統括		
17	前期統括	統括		
18	試験	実技試験・筆記試験		
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	皮膚検査	微生物学的検査		
2	皮膚検査	皮膚の構造		
3	皮膚検査	皮膚の簡易検査		
4	皮膚検査	皮膚の簡易検査		
5	耳道検査	耳道の構造・観察		
6	耳道検査	耳の検査・耳道洗浄		
7	心電図	心電図の原理・心拍数		
8	心電図・血圧	不整脈・血圧測定		
9	心電図・血圧	不整脈・血圧測定		
10	輸血	血液型について		
11	輸血	クロスマッチ		
12	眼科検査	眼の構造		
13	眼科検査	眼科一般検査		
14	眼科検査	眼科特殊検査		
15	神経学的検査	神経学的検査		
16	診療補助	採尿 (尿道カテーテル)		
17	総復習	血液検査の復習		
18	試験	実技試験・筆記試験		

実習科目	実習	動物臨床検査学実習	2学年	前後期
目的及び留意点	血液検査・糞便・尿検査などの診断へと導く重要な検査についての意義を理解し、技術を習得する			
評価方法	筆記試験・実技試験			
テキスト	『愛玩動物看護師カリキュラム準拠 実習テキスト 第3版』			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	血液検査	検体の取り扱い/CBC/血液塗抹		
2	抗体・免疫学的検査	犬猫の感染症		
3	血液検査	生化学検査		
4	血液検査	炎症マーカー/CRP検査		
5	血液検査	染色法		
6	血液検査	網状赤血球の測定と評価		
7	血液検査	正常白血球の観察		
8	血液検査	正常赤血球、血小板の観察		
9	細胞診・病理検査	皮膚の構造/簡易検査 1		
10	細胞診・病理検査	皮膚の簡易検査 2		
11	血液検査	微生物学的検査		
12	皮膚検査	耳道検査		
13	皮膚検査	バフィーコート塗抹作成		
14	血液検査	血液検査のまとめ		
15	血液検査関連	検査の効率化 筆記		
16	血液検査関連	試験の解説		
17	まとめ	症例検討		
18	定期試験	・実技 ・筆記		
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	血液検査	IDEXX カタリスト操作法		
2	血液検査	血清分離		
3	血液検査	外注検査 (血清学的検査含む)		
4	血液検査	症例検討		
5	血液検査	症例検討		
6	血液検査	症例検討		
7	血液検査	症例検討		
8	レントゲン検査	胸部・腹部の解剖		
9	レントゲン検査	犬と猫の違い		
10	レントゲン検査	正常なレントゲン像		
11	レントゲン検査	異常なレントゲン像		
12	レントゲン検査	異常なレントゲン像		
13	レントゲン検査	症例検討		
14	レントゲン検査	症例検討		
15	レントゲン検査	症例検討		
16	まとめ①	まとめ①		
17	まとめ②	まとめ②		
18	実技試験	実技試験		

実習科目	実習	動物愛護・適正飼養実習	2学年	前後期
目的及び留意点	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識を実践する。			
評価方法	課題提出			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス	実習の目標、進め方、評価方法		
2	動物と暮らす	動物人間関係学から考える 動物が人に及ぼす影響		
3	動物と暮らす	動物人間関係学から考える 人が動物にすべきこと		
4	動物の飼養環境について	基本的な考え		
5	犬の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
6	犬の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
7	犬の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
8	犬の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
9	犬の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
10	犬の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
11	犬の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
12	猫の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
13	猫の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
14	猫の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
15	猫の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
16	猫の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
17	猫の品種に応じた特徴	歴史・行動の特徴・飼養する際の工夫		
18	まとめ			
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	飼い主とのコミュニケーション⑥	法令に基いた順守すべき対応についての指導①		
2	飼い主とのコミュニケーション⑦	法令に基いた順守すべき対応についての指導②		
3	飼い主とのコミュニケーション⑧	法令に基いた順守すべき対応についての指導③		
4	飼い主とのコミュニケーション⑨	動物の飼養が困難となっている飼い主への支援についての説明①		
5	飼い主とのコミュニケーション⑩	動物の飼養が困難となっている飼い主への支援についての説明②		
6	飼い主とのコミュニケーション⑪	動物の飼養が困難となっている飼い主への支援についての説明③		
7	飼い主とのコミュニケーション⑫	動物の飼養が困難となっている飼い主への支援についての説明④		
8	飼い主とのコミュニケーション⑬	動物の飼養が困難となっている飼い主への支援についての説明⑤		
9	飼い主とのコミュニケーション⑭	避難所等災害時の飼い主への支援についての説明①		
10	飼い主とのコミュニケーション⑮	避難所等災害時の飼い主への支援についての説明②		
11	飼い主とのコミュニケーション⑯	避難所等災害時の飼い主への支援についての説明③		
12	飼い主とのコミュニケーション⑰	避難所等災害時の飼い主への支援についての説明④		
13	動物愛護管理行政①	動物愛護管理センターの活動について①		
14	動物愛護管理行政②	動物愛護管理センターの活動について②		
15	動物愛護管理行政③	動物取扱業へ指導すべき内容について①		
16	動物愛護管理行政④	動物取扱業へ指導すべき内容について②		
17	動物愛護管理行政⑤	動物取扱業における顧客等への対応についての実践①		
18	動物愛護管理行政⑥	動物取扱業における顧客等への対応についての実践②		

実習科目	実習	実践小動物看護実習	2学年	前後期
目的及 留意 点	外科手術に伴う滅菌消毒操作、手術器具の種類と用途、麻酔モニタリングについて習得する。術前から術後に至る周術期管理を実践し理解する。また手術や外傷で落ちた運動機能・筋力の回復を目的とするリハビリテーションの基礎を学ぶ。			
評価方法	筆記試験・実技試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	麻酔学①	麻酔法		
2	麻酔学②	麻酔法		
3	麻酔学③	注射麻酔		
4	麻酔学④	吸入麻酔		
5	麻酔学⑤	呼吸回路		
6	麻酔学⑥	術後管理		
7	麻酔学⑦	まとめ		
8	麻酔学⑧	モニタリング①正常なモニタリング		
9	麻酔学⑨	モニタリング②モニタリング異常とその対処法		
10	麻酔学⑩	モニタリング③モニタリング異常とその対処法		
11	手術補助①	外科器具		
12	手術補助②	歯科器具		
13	手術補助③	縫合糸、針		
14	手術補助④	手術補助		
15	手術補助⑤	まとめ		
16	リハビリテーション①	リハビリテーション講義		
17	リハビリテーション②	リハビリテーション実習		
18	前期総括			
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス			
2	歯科学①	スケーリングデモに向けてのガイダンス		
3	歯科学②	スケーリングデモンストレーション		
4	手術補助①	スケーリングデモ振り返り		
5	手術補助②	パート練習①		
6	手術補助③	パート練習②		
7	手術補助④	麻酔記録表・カルテ記入		
8	手術補助⑤	麻酔記録表・カルテ記入		
9	周術期看護について	周術期看護 (患者預かり～術前検査)		
10	周術期看護について	周術期看護 (手術前準備～手術処置)		
11	周術期看護について	周術期看護 (術後管理～退院)		
12	手術補助⑥	周術期看護 (患者預かり～術前検査)		
13	手術補助⑦	周術期看護 (手術前準備～手術処置)		
14	手術補助⑧	周術期看護 (術後管理～退院)		
15	スケーリング実習	患者情報確認・準備		
16	スケーリング実習	スケーリング実習①		
17	スケーリング実習	振り返り		
18	後期総括			

実習科目	実習	臨床検査・画像診断実習	2学年	前後期
目的及び留意点	犬猫のからだを構成する骨・筋・内臓器官の位置と相関関係が立体的に理解できるようになる。			
評価方法	筆記試験・実技試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	超音波検査：肝臓、胆嚢	超音波検査の基礎		
2	超音波検査：肝臓、胆嚢	肝臓、胆嚢の解剖・機能		
3	超音波検査：肝臓、胆嚢	肝臓・胆嚢の描出		
4	超音波検査：肝臓、胆嚢	肝臓・胆嚢の描出		
5	超音波検査：膀胱	膀胱の解剖・機能		
6	超音波検査：膀胱	膀胱の描出		
7	超音波検査：膀胱	膀胱の描出		
8	超音波検査：腎臓	腎臓の解剖・機能		
9	超音波検査：腎臓	腎臓の描出		
10	超音波検査：腎臓	腎臓の描出		
11	超音波検査：胃・脾臓・腸管	胃・脾臓・腸管の解剖・機能		
12	超音波検査：胃・脾臓・腸管	胃・脾臓・腸管の描出		
13	超音波検査：胃・脾臓・腸管	胃・脾臓・腸管の描出		
14	超音波検査：心臓	心臓の解剖・機能		
15	超音波検査：心臓	心臓の描出		
16	超音波検査：心臓	心臓の描出		
17	前期総括	前期総括		
18	前期定期試験	前期定期試験		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	骨格および筋肉の形態と機能	基本的な骨・筋肉の解剖、名称		
2	骨格および筋肉の形態と機能	関節の動きと筋肉の関係		
3	骨格および筋肉の形態と機能	複数の筋や骨格から構成される部位の触診		
4	骨格および筋肉の形態と機能	複数の筋や骨格から構成される部位の触診		
5	各部位、臓器の位置や関係性	頭部、頸部		
6	各部位、臓器の位置や関係性	胸部、肩、前肢		
7	各部位、臓器の位置や関係性	腹部、腰部		
8	各部位、臓器の位置や関係性	臀部、後肢、尾		
9	各部位、臓器の位置や関係性	筋（骨格筋、心筋、平滑筋）		
10	各部位、臓器の位置や関係性	肝臓		
11	各部位、臓器の位置や関係性	腎臓		
12	各部位、臓器の位置や関係性	肺		
13	各部位、臓器の位置や関係性	脾臓		
14	各部位、臓器の位置や関係性	膀胱		
15	各部位、臓器の位置や関係性	精巣・卵巣		
16	各部位、臓器の位置や関係性	甲状腺・副腎		
17	後期総括	後期総括		
18	後期定期試験	後期定期試験		

専門科目	講義	動物栄養学	3学年	前後期
目的及び留意点	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患事の違い、各種療法食の特色や給餌方法を修得する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	犬と猫の栄養学			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	疾患と栄養の関係	2年次の復習		
2	疾患と栄養の関係	肝疾患の栄養管理		
3	疾患と栄養の関係	肝疾患の栄養管理		
4	疾患と栄養の関係	肝疾患の栄養管理		
5	疾患と栄養の関係	糖尿病の栄養管理		
6	疾患と栄養の関係	糖尿病の栄養管理		
7	疾患と栄養の関係	糖尿病の栄養管理		
8	疾患と栄養の関係	皮膚疾患の栄養管理		
9	疾患と栄養の関係	皮膚疾患の栄養管理		
10	疾患と栄養の関係	アレルギー疾患の栄養管理		
11	疾患と栄養の関係	アレルギー疾患の栄養管理		
12	疾患を抱える飼い主への栄養指導	慢性腎臓病の栄養指導		
13	疾患を抱える飼い主への栄養指導	尿石症の栄養指導		
14	疾患を抱える飼い主への栄養指導	心血管系疾患の栄養指導		
15	疾患を抱える飼い主への栄養指導	消化器疾患の栄養指導		
16	疾患を抱える飼い主への栄養指導	肝疾患の栄養指導		
17	疾患を抱える飼い主への栄養指導	糖尿病の栄養指導		
18	疾患を抱える飼い主への栄養指導	皮膚疾患・アレルギー疾患の栄養管理		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	栄養管理	非経腸栄養法の必要な疾患と実施の方法		
2	栄養管理	非経腸栄養法の必要な疾患と実施の方法		
3	栄養管理	経口栄養剤の成分と利用法		
4	栄養管理	経口栄養剤の成分と利用法		
5	栄養管理	強制給餌法		
6	栄養管理	強制給餌法		
7	栄養管理	経胃栄養剤と経腸栄養剤の成分・利用法		
8	栄養管理	経胃栄養剤と経腸栄養剤の成分・利用法		
9	栄養管理	設置したカテーテル/チューブの維持管理方法		
10	栄養管理	設置したカテーテル/チューブの維持管理方法		
11	栄養管理	食事管理失宜による症状および対応方法		
12	栄養管理	食事管理失宜による症状および対応方法		
13	犬と猫の基礎栄養学の復習と応用	復習 水、炭水化物		
14	犬と猫の基礎栄養学の復習と応用	復習 たんぱく質、脂質		
15	犬と猫の基礎栄養学の復習と応用	復習 ビタミン、ミネラル		
16	犬と猫の基礎栄養学の復習と応用	復習 消化と吸収		

専門科目	講義	比較動物学	3学年	前後期
目的及 留意点	主な実験動物とその利用や遺伝的統御と微生物統御についても習得する。野生動物の生態及び保護・環境保全に関する課題と取り組みを認識する。また、展示動物の社会的な役割について考える。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	実験動物学総論	動物実験の目的と配慮、実験動物とは		
2	実験動物学総論	実験動物の歴史		
3	実験動物学総論	実験動物関連法規の誕生と発展、		
4	実験動物学総論	動物看護師と動物実験		
5	実験動物の管理学	生態因子の管理学、遺伝子モニタリングの管理学		
6	実験動物の管理学	住居環境因子の管理学		
7	実験動物の管理学	物理化学的因子の管理学、栄養学的管理学		
8	実験動物の管理学	微生物学的管理学		
9	実験動物の管理学	動物実験の基本技術		
10	実験動物の管理学	動物飼育管理上の注意点		
11	代表的実験動物の特性と飼育管理	マウス		
12	代表的実験動物の特性と飼育管理	ラット		
13	代表的実験動物の特性と飼育管理	シリアンハムスター		
14	代表的実験動物の特性と飼育管理	チャイニーズハムスター		
15	代表的実験動物の特性と飼育管理	スナネズミ		
16	代表的実験動物の特性と飼育管理	モルモット		
17	代表的実験動物の特性と飼育管理	ウサギ		
18	代表的実験動物の特性と飼育管理	サル類		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	代表的実験動物の特性と飼育管理	その他の動物		
2	疾患モデル動物	自然発症疾患モデル動物		
3	疾患モデル動物	トランスジェニック動物		
4	疾患モデル動物	代表的な実験的疾患モデル動物、研究資源バンク		
5	動物実験の代替法	代替法とその活用		
6	動物実験の代替法	代替法開発の背景と現在の課題		
7	野生動物	野生動物の分類と生物多様性		
8	野生動物	絶滅危惧種の定義、動物、原因、保全方法やその意義		
9	野生動物	外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響		
10	野生動物	外来生物への対策		
11	野生動物	野生動物の救護		
12	野生動物	野生動物救護の対象と内訳		
13	野生動物	野生動物の病気と事故、野生動物の救護体制		
14	展示動物	展示動物の意義と動物園などの役割		
15	展示動物	動物園における個体、群管理、行動管理		
16	展示動物	動物園などの施設管理・環境エンリッチメント		

専門科目	講義	動物臨床看護学各論	3学年	前後期
目的及び留意点	獣医師の診断法と治療方針のもとで動物の補助や飼い主を支える専門職として必要な知識を学習する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	泌尿器疾患	急性腎障害、慢性腎臓病		
2	泌尿器疾患	腎盂腎炎、タンパク喪失性腎症		
3	泌尿器疾患	尿路感染症、尿石症、膀胱炎、		
4	泌尿器疾患	猫下部尿路疾患、尿道閉塞症、レプトスピラ症		
5	泌尿器疾患	まとめ		
6	循環器疾患	僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症		
7	循環器疾患	心膜腹膜横隔膜ヘルニア、心房中隔欠損、心室中隔欠損		
8	循環器疾患	卵円孔開存、右大動脈弓遺残症、動脈管開存症、犬糸状虫症		
9	循環器疾患	まとめ		
10	呼吸器疾患	猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長		
11	呼吸器疾患	猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長		
12	呼吸器疾患	気管虚脱、短頭種気道症候群、気管支拡張症、気管支炎		
13	呼吸器疾患	肺炎、肺水腫、膿胸		
14	呼吸器疾患	猫喘息、ジステンパー、ケンネルコフ		
15	まとめ	呼吸器疾患まとめ		
16	内分泌疾患	甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症		
17	内分泌疾患	糖尿病、尿崩症		
18	内分泌疾患	副腎皮質機能低下症、副腎皮質機能亢進症		
後 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	神経疾患	脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群		
2	神経疾患	椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群		
3	造血器・免疫介在性疾患	免疫介在性溶血性貧血、ネギ中毒、ヘモプラズマ症、バベシア症		
4	造血器・免疫介在性疾患	腎性貧血、血友病、猫伝染性腹膜炎、猫白血病ウイルス感染症		
5	造血器・免疫介在性疾患	猫免疫不全ウイルス感染症、リンパ腫、白血病、肥満細胞腫		
6	生殖器疾患	潜在精巣、前立腺炎、前立腺肥大		
7	生殖器疾患	子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、膣脱、犬ブルセラ症		
8	生殖器疾患	乳房炎、乳腺腫瘍		
9	緊急疾患	交通事故、感電、熱傷		
10	緊急疾患	熱中症、中毒、誤飲		
11	緊急疾患	ショック、アナフィラキシー		
12	緊急疾患	ショック、アナフィラキシー		
13	担癌動物の看護	癌の診断のための検査、治療		
14	担癌動物の看護	腫瘍随伴症候群		
15	担癌動物の看護	担癌動物の看護援助		
16	担癌動物の看護	まとめ		

専門科目	講義	愛玩動物学	3学年	前後期
目的及び留意点	使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	血統と血統書	血統書の意義		
2	血統と血統書	血統書の意義		
3	血統と血統書	血統書の読み取り方		
4	血統と血統書	血統管理と品種改良		
5	血統と血統書	血統管理と品種改良		
6	使役動物	使役動物の歴史と福祉		
7	使役動物	使役動物の歴史と福祉		
8	使役動物	使役動物の歴史と福祉		
9	使役動物	身体障害者補助犬		
10	使役動物	身体障害者補助犬		
11	使役動物	身体障害者補助犬/盲導犬		
12	使役動物	身体障害者補助犬/盲導犬		
13	使役動物	身体障害者補助犬/介助犬		
14	使役動物	身体障害者補助犬/介助犬		
15	使役動物	身体障害者補助犬/聴導犬		
16	使役動物	身体障害者補助犬/聴導犬		
17	使役動物	その他の使役犬		
18	使役動物	その他の使役犬		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	動物の基本的な取り扱い	概要		
2	動物を安全に散歩・運動させ、ふれあわせる	意義		
3	動物を安全に散歩・運動させ、ふれあわせる	散歩		
4	動物を安全に散歩・運動させ、ふれあわせる	運動		
5	動物を安全に散歩・運動させ、ふれあわせる	ふれあい		
6	基本的グルーミング	シャンプー、ブラッシング		
7	基本的グルーミング	耳掃除		
8	基本的グルーミング	爪切り		
9	基本的グルーミング	肛門腺処置		
10	基本的グルーミング	口腔内衛生管理		
11	定期的な予防管理	ワクチンで予防できる感染症/犬		
12	定期的な予防管理	ワクチンで予防できる感染症/猫		
13	定期的な予防管理	外部寄生虫・内部寄生虫		
14	適切な飼養環境やストレスの緩和方法	飼養環境整備		
15	適切な飼養環境やストレスの緩和方法	ストレスの緩和方法		
16	まとめ			

専門科目	講義	適正飼養指導論	3学年	前後期
目的及び留意点	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻			
指 導 内 容				
前 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	愛玩動物の飼養①	適正飼養の目的		
2	愛玩動物の飼養②	適正飼養の概念		
3	愛玩動物の飼養③	愛玩動物の現状①		
4	愛玩動物の飼養④	愛玩動物の現状②		
5	愛玩動物の飼養⑤	愛玩動物によって人間が受ける影響		
6	愛玩動物の飼養⑥	愛玩動物によって人間が受ける問題点		
7	愛玩動物の飼養⑦	グリーンケアについて		
8	愛玩動物の飼養⑧	ペットロスについて		
9	愛玩動物の飼養⑨	グリーンケア、ペットロスに対しての飼い主の心情、また必要な支援		
10	適正飼養の推進①	支援の目的と活動		
11	適正飼養の推進②	動物取扱業者における適正飼養①		
12	適正飼養の推進③	動物取扱業者における適正飼養②		
13	適正飼養の推進④	過剰繁殖の問題とその対策①		
14	適正飼養の推進⑤	過剰繁殖の問題とその対策②		
15	適正飼養の推進⑥	問題行動予防のための適切な使用方法としつけ		
16	適正飼養の推進⑦	飼い主に指導すべき事項、手法		
17	まとめ①	前期復習		
18	まとめ②	小テスト		
後 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	災害危機管理と支援①	災害時の同行避難の重要性		
2	災害危機管理と支援②	同行避難と同伴避難		
3	災害危機管理と支援③	飼い主に対しての同行避難の適切な説明		
4	災害危機管理と支援④	災害獣医療の概要		
5	災害危機管理と支援⑤	災害時における愛玩動物看護師の役割①		
6	災害危機管理と支援⑥	災害時における愛玩動物看護師の役割②		
7	動物愛護管理行政①	公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割		
8	動物愛護管理行政②	動物愛護週間の役割と実施状況		
9	動物愛護管理行政③	犬猫の引き取り		
10	動物愛護管理行政④	負傷動物の収容並びに処分の状況		
11	動物愛護管理行政⑤	動物による事故の内容と報告状況		
12	動物愛護管理行政⑥	動物愛護管理センターの活動		
13	動物愛護管理行政⑦	動物愛護推進委員、協議会の役割		
14	動物愛護管理行政⑧	動物取扱責任者の選任条件と役割		
15	まとめ①	後期復習		
16	まとめ②	総復習		

専門科目	講義	動物生活環境学	3学年	前後期
目的及び留意点	動物の行動様式を理解した上で、飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法を学ぶ。またペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについても学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	飼養環境整備①	動物行動学の復習		
2	飼養環境整備②	人とペットのための飼養環境整備の必要性		
3	飼養環境整備③	ペット共生住宅の現状		
4	飼養環境整備④	ペット共生住宅の環境整備		
5	飼養環境整備⑤	ペット共生住宅の管理方法		
6	ペットツーリズム関連施設①	ペットツーリズムの現状		
7	ペットツーリズム関連施設②	ペットツーリズムの実施方法		
8	ペットツーリズム関連施設③	ペット同伴ホテルの環境整備		
9	ペットツーリズム関連施設④	ペット同伴ホテルの管理方法		
10	ペット関連企画①	ペット関連イベント活動の企画運営		
11	ペット関連企画②	ペット関連イベント活動の地域振興		
12	ドッグラン施設①	ドッグランの環境整備		
13	ドッグラン施設②	ドッグランの管理方法		
14	保護収容施設①	動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備、管理方法		
15	保護収容施設②	シェルターメディスン		
16	保護収容施設③	動物愛護管理センターの役割		
17	まとめ①	前期復習		
18	まとめ②	小テスト		
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	ペットへの教育・訓練施設①	動物の社会化トレーニングの意義、必要性		
2	ペットへの教育・訓練施設②	動物の社会化トレーニングの方法、施設①		
3	ペットへの教育・訓練施設③	動物の社会化トレーニングの方法、施設②		
4	動物介在教育施設①	学校飼育動物等の施設の環境整備①		
5	動物介在教育施設②	学校飼育動物等の施設の環境整備②		
6	動物介在教育施設③	学校飼育動物等の管理方法①		
7	動物介在教育施設④	学校飼育動物等の管理方法②		
8	ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応①	飼育マナーの必要性や目的		
9	ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応②	飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違い		
10	ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応③	地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例①		
11	ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応④	地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例②		
12	ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応⑤	愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナー		
13	ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応⑥	ペット保険の仕組みと実態①		
14	ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応⑦	ペット保険の仕組みと実態②		
15	まとめ①	後期復習		
16	まとめ②	総復習		

専門科目	講義	ペット関連産業概論	3学年	前後期
目的及 留意 点	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼育のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	ペット関連産業における職業倫理 (行動倫理を含む)	ペット関連産業における責任と社会的役割		
2	ペット関連産業における職業倫理 (行動倫理を含む)	ペット関連産業における責任と社会的役割		
3	ペット関連産業における職業倫理 (行動倫理を含む)	商取引における関連法規の概要		
4	ペット関連産業における職業倫理 (行動倫理を含む)	民法、商法		
5	ペット関連産業における職業倫理 (行動倫理を含む)	動物の愛護及び管理に関する法律		
6	ペット関連産業における職業倫理 (行動倫理を含む)	愛がん動物用飼料の安全の確保に関する法律		
7	ペット関連産業における職業倫理 (行動倫理を含む)	消費者契約法、労働基準法、		
8	ペット関連産業における職業倫理 (行動倫理を含む)	動物愛護管理法に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法		
9	ペット関連産業における職業倫理 (行動倫理を含む)	動物愛護管理法に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法		
10	ペットの飼育実態と市場規模	ペットの飼育実態		
11	ペットの飼育実態と市場規模	ペットの飼育実態		
12	ペットの飼育実態と市場規模	ペットの飼育実態		
13	ペットの飼育実態と市場規模	各ペット産業の市場規模		
14	ペットの飼育実態と市場規模	各ペット産業の市場規模		
15	ペットの飼育実態と市場規模	各ペット産業の市場規模		
16	ペットの飼育実態と市場規模	ペット産業全体の市場規模		
17	ペットの飼育実態と市場規模	ペット産業全体の市場規模		
18	まとめ			
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	各ペット関連産業の現状と課題	ペット産業の分類		
2	各ペット関連産業の現状と課題	ペット産業の分類		
3	各ペット関連産業の現状と課題	動物病院の現状		
4	各ペット関連産業の現状と課題	動物病院の現状		
5	各ペット関連産業の現状と課題	動物病院以外のサービス業の現状		
6	各ペット関連産業の現状と課題	動物病院以外のサービス業の現状		
7	各ペット関連産業の現状と課題	生体販売業の現状		
8	各ペット関連産業の現状と課題	生体販売業の現状		
9	各ペット関連産業の現状と課題	ペットショップの現状		
10	各ペット関連産業の現状と課題	ペットショップの現状		
11	各ペット関連産業の現状と課題	その他ペット産業の現状		
12	各ペット関連産業の現状と課題	その他ペット産業の現状		
13	動物取扱業	動物取扱業制度の概要		
14	動物取扱業	動物取扱業制度の概要		
15	動物取扱業	動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法および衛生管理		
16	まとめ			

実習科目	実習	動物外科看護学実習	3学年	前後期
目的及び留意点	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救命救急など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。			
評価方法	実技試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス	ガイダンス		
2	周術期管理とは	座学 周術期管理		
3	周術期管理①	歯科処置①		
4	周術期管理②	犬の去勢手術および歯科処置①		
5	周術期管理③	犬の去勢手術および歯科処置②		
6	周術期管理④	犬の去勢手術および歯科処置③		
7	周術期管理⑤	犬の去勢手術および歯科処置④		
8	周術期管理⑥	犬の去勢手術および歯科処置⑤		
9	周術期管理⑦	犬の去勢手術および歯科処置⑥		
10	周術期管理⑧	犬の去勢手術および歯科処置⑦		
11	周術期管理⑨	犬の去勢手術および歯科処置⑨		
12	周術期管理⑩	犬の去勢手術および歯科処置⑩		
13	周術期管理⑪	犬の去勢手術および歯科処置⑪		
14	周術期管理⑫	犬の去勢手術および歯科処置⑫		
15	周術期管理⑬	犬の去勢手術および歯科処置⑬		
16	周術期管理⑭	犬の去勢手術および歯科処置⑭		
17	前期試験	試験		
18	まとめ	まとめ		
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス	ガイダンス		
2	周術期管理①	犬の避妊手術および歯科処置①		
3	周術期管理②	犬の避妊手術および歯科処置②		
4	周術期管理③	犬の避妊手術および歯科処置③		
5	周術期管理④	犬の避妊手術および歯科処置④		
6	周術期管理⑤	犬の避妊手術および歯科処置⑤		
7	周術期管理⑥	犬の避妊手術および歯科処置⑥		
8	周術期管理⑦	犬の避妊手術および歯科処置⑦		
9	周術期管理⑧	犬の避妊手術および歯科処置⑧		
10	周術期管理⑨	犬の避妊手術および歯科処置⑨		
11	周術期管理⑩	犬の避妊手術および歯科処置⑩		
12	周術期管理⑪	犬の避妊手術および歯科処置⑪		
13	周術期管理⑫	犬の避妊手術および歯科処置⑫		
14	周術期管理⑬	犬の避妊手術および歯科処置⑬		
15	まとめ	総復習		
16	実技試験	実技試験		

実習科目	実習	動物臨床看護学実習	3学年	前後期
目的及び留意点	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救命救急など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。			
評価方法	実技試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	周術期管理とは	座学 周術期管理		
2	周術期管理とは	座学 周術期管理		
3	周術期管理①	入院動物の管理		
4	周術期管理②	入院動物の管理		
5	周術期管理③	入院動物の管理		
6	周術期管理④	入院動物の管理		
7	周術期管理⑤	入院動物の管理		
8	周術期管理⑥	入院動物の管理		
9	周術期管理⑦	入院動物の管理		
10	周術期管理⑧	入院動物の管理		
11	周術期管理⑨	入院動物の管理		
12	周術期管理⑩	入院動物の管理		
13	周術期管理⑪	入院動物の管理		
14	周術期管理⑫	入院動物の管理		
15	周術期管理⑬	入院動物の管理		
16	周術期管理⑭	入院動物の管理		
17	前期試験	試験		
18	まとめ	まとめ		
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	周術期管理とは	座学 周術期管理		
2	周術期管理①	座学 周術期管理		
3	周術期管理②	入院動物の管理		
4	周術期管理③	入院動物の管理		
5	周術期管理④	入院動物の管理		
6	周術期管理⑤	入院動物の管理		
7	周術期管理⑥	入院動物の管理		
8	周術期管理⑦	入院動物の管理		
9	周術期管理⑧	入院動物の管理		
10	周術期管理⑨	入院動物の管理		
11	周術期管理⑩	入院動物の管理		
12	周術期管理⑪	入院動物の管理		
13	周術期管理⑫	入院動物の管理		
14	周術期管理⑬	入院動物の管理		
15	周術期管理⑭	入院動物の管理		
16	後期試験	後期試験		

実習科目	実習	動物臨床検査学実習	3学年	前後期
目的及び留意点	校有動物の健康管理の一環として、糞便検査・尿検査・血液検査を実施する。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	糞便検査①	校有犬の健康管理		
2	糞便検査②	校有犬の健康管理		
3	糞便検査③	校有犬の健康管理		
4	糞便検査④	校有犬の健康管理		
5	糞便検査⑤	校有犬の健康管理		
6	糞便検査⑥	校有犬の健康管理		
7	糞便検査⑦	校有犬の健康管理		
8	糞便検査⑧	校有犬の健康管理		
9	尿検査①	校有犬の健康管理		
10	尿検査②	校有犬の健康管理		
11	尿検査③	校有犬の健康管理		
12	尿検査④	校有犬の健康管理		
13	尿検査⑤	校有犬の健康管理		
14	尿検査⑥	校有犬の健康管理		
15	尿検査⑦	校有犬の健康管理		
16	尿検査⑧	校有犬の健康管理		
17	まとめ	まとめ		
18	試験	試験		
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	尿検査①	校有犬の健康管理		
2	尿検査②	校有犬の健康管理		
3	尿検査③	校有犬の健康管理		
4	尿検査④	校有犬の健康管理		
5	尿検査⑤	校有犬の健康管理		
6	尿検査⑥	校有犬の健康管理		
7	尿検査⑦	校有犬の健康管理		
8	血液検査①	校有犬の健康管理		
9	血液検査②	校有犬の健康管理		
10	血液検査③	校有犬の健康管理		
11	血液検査④	校有犬の健康管理		
12	血液検査⑤	校有犬の健康管理		
13	血液検査⑥	校有犬の健康管理		
14	血液検査⑦	校有犬の健康管理		
15	まとめ	まとめ		
16	試験	試験		

実習科目	実習	動物愛護・適正飼養実習	3学年	前後期
目的及 留意 点	犬のハンドリング、散歩や運動について飼主指導ができることを目指す。 動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛 護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識を实践する。			
評価方法	実技試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	パピートレーニングの習得	ご褒美の使い方/抱き方		
2	パピートレーニングの習得	ホールディング/慣らし方		
3	パピートレーニングの習得	褒め言葉、名前を呼ぶ練習		
4	パピートレーニングの習得	コマンドトレーニング		
5	パピートレーニングの習得	コマンドトレーニング		
6	パピートレーニングの習得	コマンドトレーニング		
7	パピートレーニングの習得	コマンドトレーニング		
8	パピートレーニングの習得	クリッカートレーニング		
9	パピートレーニングの習得	クリッカートレーニング		
10	パピートレーニングの習得	クリッカートレーニング		
11	パピートレーニングの習得	クリッカートレーニング		
12	パピートレーニングの習得	クリッカートレーニング		
13	パピートレーニングの習得	犬を用いたクリッカートレーニング		
14	パピートレーニングの習得	歩行の練習		
15	パピートレーニングの習得	歩行の練習		
16	パピートレーニングの習得	犬との遊び方/ゲーム		
17	パピートレーニングの習得	犬との遊び方/ゲーム		
18	前期 総括			
後 期 (1時限)				
週	教程	教程内容		
1	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	保定・採血の馴致法・パピーとの関わり方		
2	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	保定・採血の馴致法・パピーとの関わり方		
3	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	保定・採血の馴致法・パピーのトイレトレーニング		
4	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	保定・採血の馴致法・パピーのトイレトレーニング		
5	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	保定・採血の馴致法・社会化トレーニング		
6	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	保定・採血の馴致法・社会化トレーニング		
7	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	保定・採血の馴致法・社会化トレーニング		
8	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	保定・採血の馴致法・社会化トレーニング		
9	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	爪切りの馴致法・歯磨きトレーニング		
10	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	爪切りの馴致法・歯磨きトレーニング		
11	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	爪切りの馴致法・歯磨きトレーニング		
12	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	爪切りの馴致法・歯磨きトレーニング		
13	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	トリックトレーニング・口輪の馴致法		
14	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	トリックトレーニング・口輪の馴致法		
15	成犬の馴致トレーニング・院内におけるパピークラスの運営	トリックトレーニング・口輪の馴致法		
16	後期 総括			

実習科目	実習	実践小動物看護実習	3学年	前後期
目的及び留意点	校有動物の身体的・心理的健康が増進または維持されるよう日常の健康管理に携わる。 アセスメントの過程から観察と情報収集・整理を行い、個別性のある動物看護ができることを目指す。			
評価方法	課題提出			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス	実習の目標と進め方		
2	担当 校有犬の情報収集と整理	思考過程による情報収集・整理とチームミーティング		
3	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理/口腔内評価		
4	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
5	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
6	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
7	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理/BCSの評価		
8	PDCAによる評価と改善	報告		
9	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理/尿検査の結果から考える		
10	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
11	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
12	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
13	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
14	PDCAによる評価と改善	報告		
15	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理/尿検査の結果から考える		
16	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
17	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
18	PDCAによる計画と実践	報告		
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理/口腔内評価		
2	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
3	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
4	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
5	PDCAによる評価と改善	報告		
6	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理/尿検査の結果から考える		
7	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
8	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
9	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
10	PDCAによる評価と改善	報告		
11	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
12	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
13	PDCAによる計画と実践	校有犬の健康管理		
14	PDCAによる評価と改善	報告		
15	1年間の振り返り	健康管理の引継ぎ		
16	まとめ			

実習科目	実習	応用動物看護実習	3学年	前後期
目的及び留意点	シャンプー療法を通じて、犬猫の皮膚の構造や生理機能を理解する。また、それに順じて耳の構造を理解した上で、保定法や耳鏡の使い方を理解する。耳垢検査を実践し、準備物や検査手技等理解する。肛門腺処置もできるようにする。眼科疾患を理解する。また、校有犬の尿検査を通じて健康管理を考える			
評価方法	筆記試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	皮膚/スキンケアについて	皮膚構造・生理を理解する・皮膚病とシャンプー療法		
2	尿検査	尿検査手技・実習流れを理解する		
3	スキンケアについて	シャンプー療法手順・シャンプー療法泡立て方		
4	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
5	スキンケアについて	シャンプー種類及び使用目的・スキンケアグッズの使用法		
6	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
7	スキンケアについて	ケーススタディ		
8	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
9	スキンケアについて	シャンプー療法（部分薬浴）実践		
10	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
11	耳の構造と外耳のケアの目的	外耳の構造 耳鏡検査時の保定法と実践、外耳道ケア（耳道洗浄、耳毛抜き）		
12	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
13	スキンケアについて	シャンプー療法（部分薬浴）実践		
14	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
15	肛門腺の構造・処置の目的	肛門腺処置実践		
16	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
17	皮膚病について	皮膚病及び検査内容		
18	テスト対策	テスト対策		
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	前期振り返り	前期振り返り		
2	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
3	スキンケアについて	シャンプー療法 実践（全身）		
4	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
5	外耳炎	耳垢検査（実践）		
6	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
7	外耳炎	単元テスト		
8	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
9	細胞診	細胞診（実践）		
10	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
11	細胞診	単元テスト		
12	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
13	眼の構造、眼科疾患・眼科検査について	眼の構造を理解する・角膜の検査（フルオレセイン染色検査）		
14	眼科疾患・眼科検査について	角膜の検査（シルマー涙液試験）・角膜の検査（眼圧測定）		
15	校有犬の尿検査	尿検査・結果・考察・プランを検討する		
16	総括	総括		

実習科目	実習	エキゾチックアニマル実習	3学年	前後期
目的及び留意点	イヌ、ネコとは全く異なるエキゾチックアニマルの生態、特徴を学び、飼育方法、動物病院における接し方などを習得することを目的とする。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編 第3版・プリント			
指 導 内 容				
前 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	ウサギ栄養	ウサギ栄養		
2	ウサギ栄養	ウサギ栄養		
3	ウサギ栄養	ウサギ栄養		
4	ウサギ麻酔	ウサギ麻酔		
5	ウサギ麻酔	ウサギ麻酔		
6	ウサギ麻酔	ウサギ麻酔		
7	ウサギ麻酔	ウサギ麻酔		
8	モルモット	モルモット		
9	モルモット	モルモット		
10	モルモット	モルモット		
11	モルモット	モルモット		
12	チンチラ	チンチラ		
13	チンチラ	チンチラ		
14	チンチラ	チンチラ		
15	試験対策	試験対策		
16	症例検討	フェレットの飼育過誤による症例		
17	症例検討	ウサギの飼育過誤による症例		
18	症例検討	まとめ		
後 期 (2時限)				
週	教程	教程内容		
1	フェレット副腎疾患/ハムスター実習	フェレット副腎疾患/ハムスター実習		
2	プレ・ジリス	プレ・ジリス		
3	プレ・ジリス終了	プレ・ジリス終了		
4	水棲カメの基礎	水棲カメの基礎		
5	カメ実習	カメ実習		
6	水棲カメ/リクガメ	水棲カメ/リクガメ		
7	カメの臨床	カメの臨床		
8	カメの臨床	カメの臨床		
9	ハンドリング	ハンドリング		
10	ハンドリング	ハンドリング		
11	試験対策	試験対策		
12	症例検討	小鳥の飼育過誤による症例		
13	症例検討	鳥の飼育過誤による症例		
14	症例検討	プレーリードッグの飼育過誤による症例		
15	症例検討	カメの飼育過誤による症例		
16	症例検討	まとめ		

必修選択科目	講義	猫学	3学年	前後期
目的及び留意点	猫の生態、習性などの基本を学び、キャットマイスターベーシックの資格取得を目指す。			
評価方法	筆記試験			
テキスト	Text Book of Meister			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス	授業ガイダンス		
2	グルーミングについて	グルーミングについて		
3	猫の歴史	猫の歴史、3つの品種発生パターン		
4	身体づくり	骨格の各部名称		
5	身体づくり	内臓系		
6	身体づくり	感覚器		
7	体型	体型別の代表的な猫種		
8	毛色について	毛色について		
9	毛色について	毛色について		
10	健康管理	健康管理		
11	健康管理	健康管理		
12	病気の基礎知識	病気の基礎知識		
13	病気の基礎知識	病気の基礎知識		
14	病気の基礎知識	病気の基礎知識		
15	動物愛護及び管理に関する法律	動物愛護及び管理に関する法律		
16	遺伝と繁殖	遺伝と繁殖		
17	猫の選び方と飼い方	猫の選び方、買い方		
18	試験	試験とまとめ		
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	ガイダンス	授業ガイダンス		
2	グルーミングについて	グルーミングについて		
3	猫の歴史	猫の歴史、3つの品種発生パターン		
4	身体づくり	骨格の各部名称		
5	身体づくり	内臓系		
6	身体づくり	感覚器		
7	体型	体型別の代表的な猫種		
8	毛色について	毛色について		
9	毛色について・健康管理	毛色について・健康管理		
10	健康管理	健康管理		
11	病気の基礎知識	病気の基礎知識		
12	病気の基礎知識	病気の基礎知識		
13	動物愛護及び管理に関する法律	動物愛護及び管理に関する法律		
14	遺伝と繁殖	遺伝と繁殖		
15	猫の選び方と飼い方	猫の選び方、買い方		
16	試験	試験とまとめ		

必修選択科目	実習	アニマルアロマ実習	3学年	前後期
目的及び留意点	犬に対してのアロマセラピーの基礎および、精油の効用を学ぶ。アニマルアロママッサージの手技を習得する。			
評価方法	筆記試験、実技試験			
テキスト	教科書			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	ホリスティックアニマルアロマセラピー	ホリスティックアニマルアロマセラピーとは		
2	ホリスティックアニマルアロマセラピー	アロマセラピーは代替療法のひとつ、自然治癒力に働くアロマセラピー		
3	アロマセラピーの基本	アロマセラピーの歴史		
4	アロマセラピーの基本	精油とは、精油の抽出方法、香りの特徴、精油の取り扱いルール		
5	動物へのアロマセラピー	アニマルアロマセラピーとは		
6	動物へのアロマセラピー	アニマルアロマセラピー精油使用のガイドライン		
7	動物へのアロマセラピー	動物に精油を使用する際の注意事項、精油の犬への使用方法		
8	動物へのアロマセラピー	猫の歴史、猫にも安全なハーブウォーター		
9	精油が働くメカニズム (嗅覚)	犬の嗅覚、猫の嗅覚、嗅覚のしくみ		
10	精油が働くメカニズム (皮膚)	犬・猫の皮膚について、経皮吸収のしくみ		
11	アニマルアロママッサージ	アニマルアロママッサージとは		
12	アニマルアロママッサージ	アニマルアロママッサージ テクニック6つの部位 (実習)		
13	アニマルアロママッサージ	アニマルアロママッサージ手順 ステップ1、2、3、4 (実習)		
14	アニマルアロママッサージ	アニマルアロママッサージ (実習)		
15	アニマルアロママッサージ	アニマルアロママッサージ (実習)		
16	アニマルアロママッサージ	アニマルアロママッサージ (実習)		
17	アニマルアロママッサージ	アニマルアロママッサージ (実習)		
18	ライセンス実技試験、定期試験	ライセンス実技試験、定期試験		
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	ホリスティックアニマルアロマセラピー	ホリスティックアニマルアロマセラピーとは		
2	ホリスティックアニマルアロマセラピー	アロマセラピーは代替療法のひとつ、自然治癒力に働くアロマセラピー		
3	アロマセラピーの基本	アロマセラピーの歴史		
4	アロマセラピーの基本	精油とは、精油の抽出方法、香りの特徴、精油の取り扱いルール		
5	動物へのアロマセラピー	アニマルアロマセラピーとは		
6	動物へのアロマセラピー	アニマルアロマセラピー精油使用のガイドライン		
7	動物へのアロマセラピー	動物に精油を使用する際の注意事項、精油の犬への使用方法		
8	動物へのアロマセラピー	猫の歴史、猫にも安全なハーブウォーター		
9	精油が働くメカニズム (嗅覚)	犬の嗅覚、猫の嗅覚、嗅覚のしくみ		
10	精油が働くメカニズム (皮膚)	犬・猫の皮膚について、経皮吸収のしくみ		
11	アニマルアロママッサージ	アニマルアロママッサージとは		
12	アニマルアロママッサージ	アニマルアロママッサージ テクニック6つの部位 (実習)		
13	アニマルアロママッサージ	アニマルアロママッサージ手順 ステップ1、2、3、4 (実習)		
14	アニマルアロママッサージ	アニマルアロママッサージ (実習)		
15	アニマルアロママッサージ	アニマルアロママッサージ (実習)		
16	ライセンス実技試験、定期試験	ライセンス実技試験、定期試験		

必修選択科目	実習	理学療法実習	3学年	前後期
目的及び留意点	獣医師の治療補助や臨床検査、カルテ記入など、動物の状態を把握し様々な状況に対応できる看護技術を身に付ける。			
評価方法	筆記試験、実技試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	リハビリ概論、解剖基礎①	リハビリ概論、リハビリに必要な解剖基礎知識(骨、筋、作用など)		
2	解剖基礎② ストレッチ	解剖基礎知識つづき、ストレッチの種類		
3	マッサージ、徒手での運動療法	マッサージや運動療法実技		
4	解剖基礎③ 反射、麻痺	解剖基礎(神経系)、反射機序、麻痺について		
5	第4回のつづき、姿勢反応、脊髄反射	姿勢反応、脊髄反射についての実技		
6	物理療法①	温熱療法、寒冷療法、水療法		
7	物理療法②	超音波療法、電気療法、レーザー療法		
8	水療法①実技	手順説明、足根水深		
9	水療法②実技	膝、大転子水深		
10	動作分析、運動療法①	動作分析、用具を用いた運動療法プログラム		
11	運動療法②	前回のつづき		
12	症例検討①	実際の症例動画を用いた評価やプログラム立案①		
13	症例検討②	実際の症例動画を用いた評価やプログラム立案②		
14	症例検討③	実際の症例動画を用いた評価やプログラム立案③		
15	症例検討④	実際の症例動画を用いた評価やプログラム立案④		
16	前期まとめ①	まとめ		
17	前期まとめ②	まとめ		
18	前期試験	前期試験		
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	リハビリ概論、解剖基礎①	リハビリ概論、リハビリに必要な解剖基礎知識(骨、筋、作用など)		
2	解剖基礎② ストレッチ	解剖基礎知識つづき、ストレッチの種類		
3	マッサージ、徒手での運動療法	マッサージや運動療法実技		
4	解剖基礎③ 反射、麻痺	解剖基礎(神経系)、反射機序、麻痺について		
5	第4回のつづき、姿勢反応、脊髄反射	姿勢反応、脊髄反射についての実技		
6	物理療法①	温熱療法、寒冷療法、水療法		
7	物理療法②	超音波療法、電気療法、レーザー療法		
8	水療法①実技	手順説明、足根水深		
9	水療法②実技	膝、大転子水深		
10	動作分析、運動療法①	動作分析、用具を用いた運動療法プログラム		
11	運動療法②	前回のつづき		
12	症例検討①	実際の症例動画を用いた評価やプログラム立案①		
13	症例検討②	実際の症例動画を用いた評価やプログラム立案②		
14	症例検討③	実際の症例動画を用いた評価やプログラム立案③		
15	後期まとめ	まとめ		
16	後期試験	前期試験		

必修選択科目	実習	治療実習	3学年	前後期
目的及び留意点	獣医師の治療補助や臨床検査、カルテ記入など、動物の状態を把握し様々な状況に対応できる看護技術を身に付ける。			
評価方法	実技			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	校有動物の治療・看護①	診察補助、調薬、各種検査の実施		
2	校有動物の治療・看護②	診察補助、調薬、各種検査の実施		
3	校有動物の治療・看護③	診察補助、調薬、各種検査の実施		
4	校有動物の治療・看護④	診察補助、調薬、各種検査の実施		
5	校有動物の治療・看護⑤	診察補助、調薬、各種検査の実施		
6	校有動物の治療・看護⑥	診察補助、調薬、各種検査の実施		
7	校有動物の治療・看護⑦	診察補助、調薬、各種検査の実施		
8	校有動物の治療・看護⑧	診察補助、調薬、各種検査の実施		
9	校有動物の治療・看護⑨	診察補助、調薬、各種検査の実施		
10	校有動物の治療・看護⑩	診察補助、調薬、各種検査の実施		
11	校有動物の治療・看護⑪	診察補助、調薬、各種検査の実施		
12	校有動物の治療・看護⑫	診察補助、調薬、各種検査の実施		
13	校有動物の治療・看護⑬	診察補助、調薬、各種検査の実施		
14	校有動物の治療・看護⑭	診察補助、調薬、各種検査の実施		
15	校有動物の治療・看護⑮	診察補助、調薬、各種検査の実施		
16	校有動物の治療・看護⑯	診察補助、調薬、各種検査の実施		
17	校有動物の治療・看護⑰	診察補助、調薬、各種検査の実施		
18	まとめ	まとめ		
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	校有動物の治療・看護①	診察補助、調薬、各種検査の実施		
2	校有動物の治療・看護②	診察補助、調薬、各種検査の実施		
3	校有動物の治療・看護③	診察補助、調薬、各種検査の実施		
4	校有動物の治療・看護④	診察補助、調薬、各種検査の実施		
5	校有動物の治療・看護⑤	診察補助、調薬、各種検査の実施		
6	校有動物の治療・看護⑥	診察補助、調薬、各種検査の実施		
7	校有動物の治療・看護⑦	診察補助、調薬、各種検査の実施		
8	校有動物の治療・看護⑧	診察補助、調薬、各種検査の実施		
9	校有動物の治療・看護⑨	診察補助、調薬、各種検査の実施		
10	校有動物の治療・看護⑩	診察補助、調薬、各種検査の実施		
11	校有動物の治療・看護⑪	診察補助、調薬、各種検査の実施		
12	校有動物の治療・看護⑫	診察補助、調薬、各種検査の実施		
13	校有動物の治療・看護⑬	診察補助、調薬、各種検査の実施		
14	校有動物の治療・看護⑭	診察補助、調薬、各種検査の実施		
15	校有動物の治療・看護⑮	診察補助、調薬、各種検査の実施		
16	まとめ	まとめ		

必修選択科目	実習	訓練実習	3学年	前後期
目的及び留意点	伴侶動物である犬のしつけの重要性と実践方法を学び、犬の飼育におけるしつけの重要性を理解する。また家庭犬訓練士初級の取得を目的とする。			
評価方法	実技試験			
テキスト	プリント			
指 導 内 容				
前 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (歴史)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
2	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (本能①)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
3	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (本能②)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
4	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (本能③)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
5	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (ライフステージ①)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
6	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (ライフステージ②)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
7	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (ライフステージ③)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
8	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (学習理論①)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
9	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (学習理論②)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
10	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (学習理論③)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
11	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (学習理論④)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
12	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (訓練用具①)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
13	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (訓練用具②)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
14	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (攻撃行動①)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
15	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (攻撃行動②)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
16	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (問題行動への対応)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
17	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (問題行動への対応)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
18	まとめ	半期復習		
後 期 (3時限)				
週	教程	教程内容		
1	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (歴史)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
2	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (本能①)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
3	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (本能②)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
4	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (本能③)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
5	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (ライフステージ①)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
6	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (ライフステージ②)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
7	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (学習理論①)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
8	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (学習理論②)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
9	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (学習理論③)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
10	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (訓練用具①)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
11	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (訓練用具②)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
12	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (攻撃行動①)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
13	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (攻撃行動②)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
14	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (問題行動への対応)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
15	座学 (犬の基本的な行動様式) /実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	座学 (問題行動への対応)	実習 (家庭犬訓練士初級項目の実践)	
16	まとめ	半期復習		